

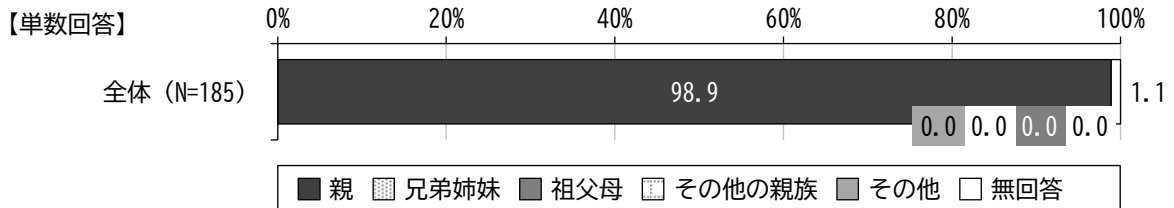
第5章 障害児（18歳未満）の保護者調査結果

【調査名】子どもと保護者が暮らしやすいまちづくりのための福祉に関するアンケート

1 保護者（調査に回答していただく人）についておたずねします

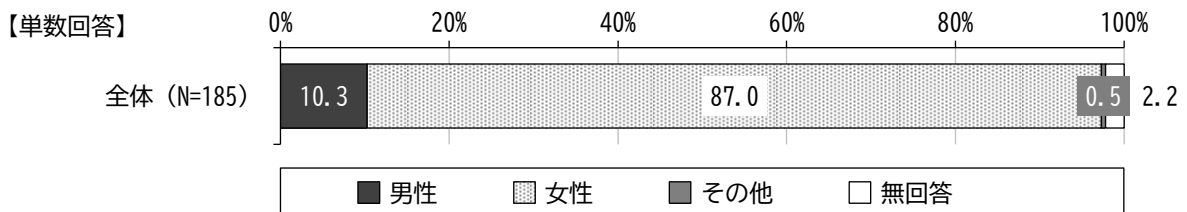
問1 あて名のお子さんからみて、保護者（回答者）はどなたですか。（1つに○）

○ 回答者は、「親（98.9%）」が最も多くなっている。



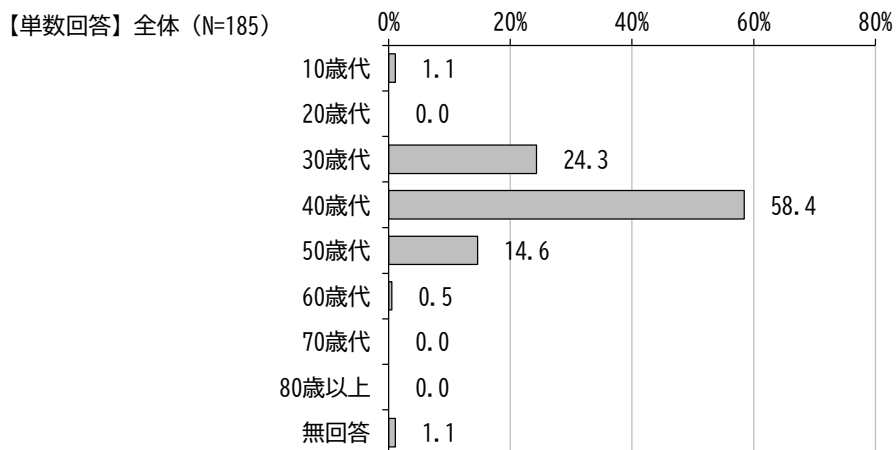
問2 保護者の性別を教えてください。（1つに○）

○ 保護者の性別は、「男性（10.3%）」、「女性（87.0%）」、「その他（0.5%）」である。



問3 保護者の年齢を教えてください。（1つに○）（令和7年10月1日現在）

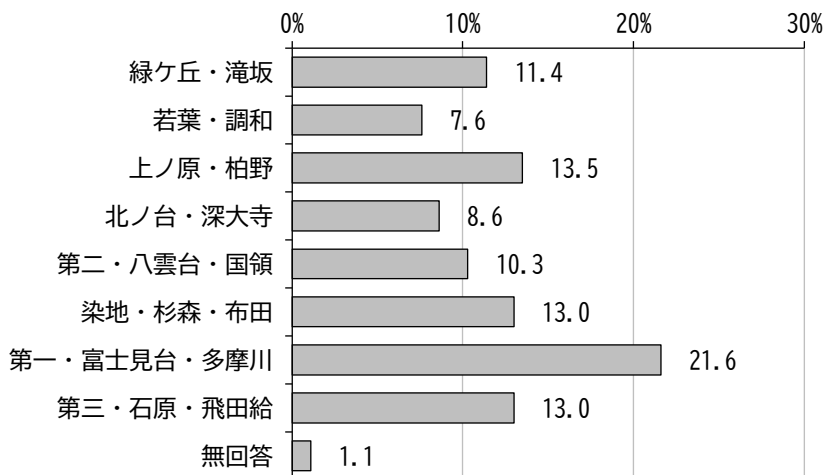
○ 保護者の年齢は、「40歳代（58.4%）」が最も多く、「30歳代（24.3%）」、「50歳代（14.6%）」が続いている。



問4 お住いの地域を教えてください。(1つに○)

- 居住地域（福祉圏域）は、「第一・富士見台・多摩川（21.6%）」が最も多く、「上ノ原・柏野（13.5%）」、「染地・杉森・布田（13.0%）」「第三・石原・飛田給（13.0%）」が続いている。

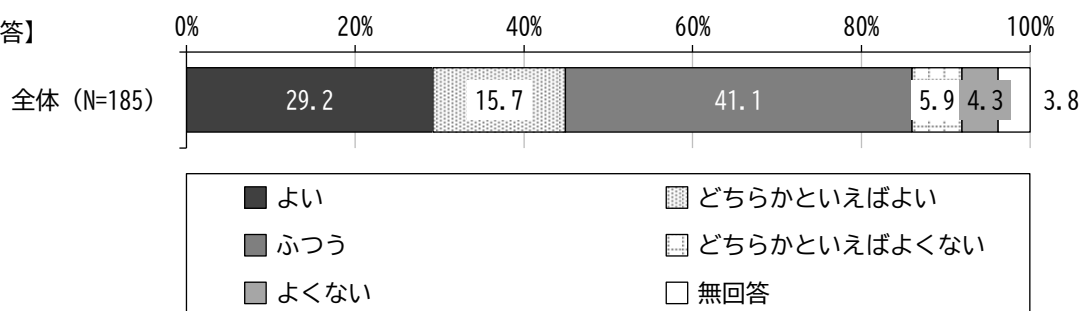
【単数回答】全体（N=185）



問5 あなた（保護者）は、ご自分の健康状態をどのように感じていますか。(1つに○)

- 保護者の健康状況は、「ふつう（41.1%）」が最も多く、「よい（29.2%）」、「どちらかといえばよい（15.7%）」が続いている。

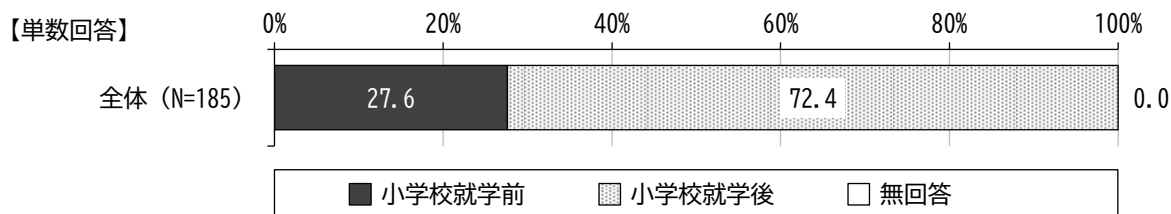
【単数回答】



2 保護者の方に、あて名のお子さんについておたずねします

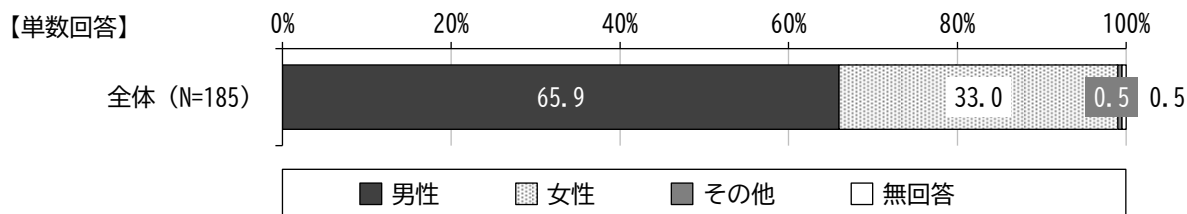
問6 あて名のお子さんの就学状況を教えてください。(1つに○)

○ お子さんの就学状況は、「小学校就学前 (27.6%)」、「小学校就学後 (72.4%)」である。



問7 あて名のお子さんの性別を教えてください。(1つに○)

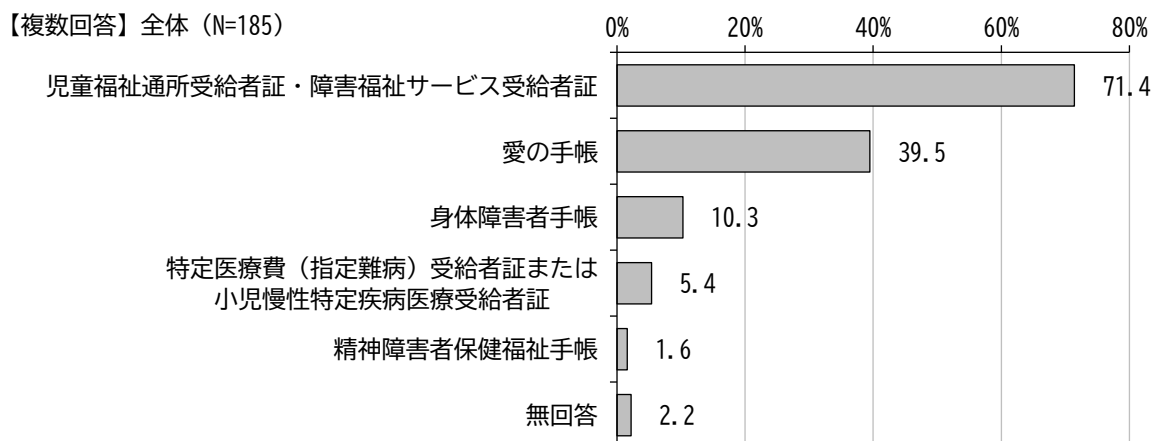
○ お子さんの性別は、「男性 (65.9%)」、「女性 (33.0%)」、「その他 (0.5%)」である。



問8 あて名のお子さんがおもちの手帳等とその等級を教えてください。(いくつでも○)

①持っている手帳の種類

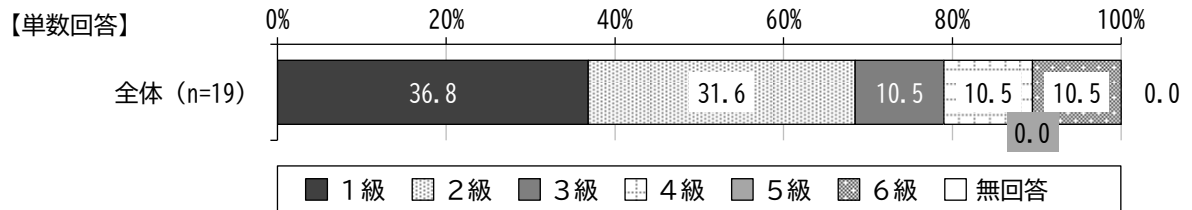
○ お子さんの持っている手帳の種類は、「児童福祉通所受給者証・障害福祉サービス受給者証 (71.4%)」が最も多く、「愛の手帳 (39.5%)」、「身体障害者手帳 (10.3%)」が続いている。



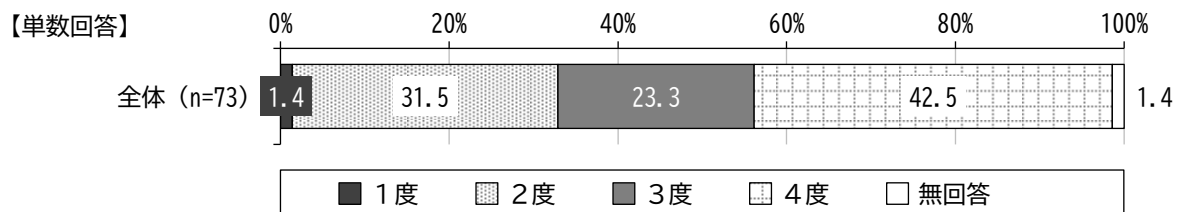
②持っている手帳の等級

○ お子さんの手帳の等級は，身体障害者手帳で「1級（36.8%）」，愛の手帳で「4度（42.5%）」，精神障害者保健福祉手帳で「3級（66.7%）」が最も多くなっている。

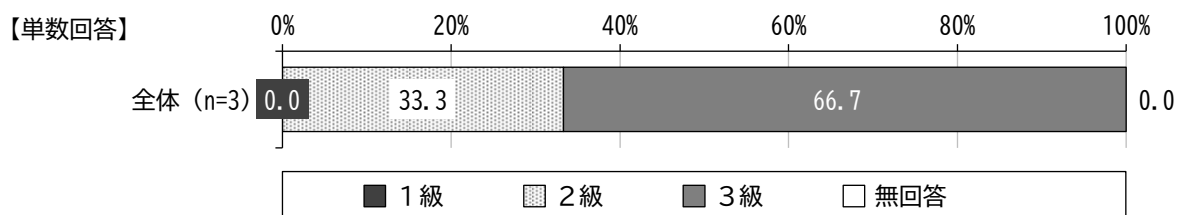
・身体障害者手帳



・愛の手帳

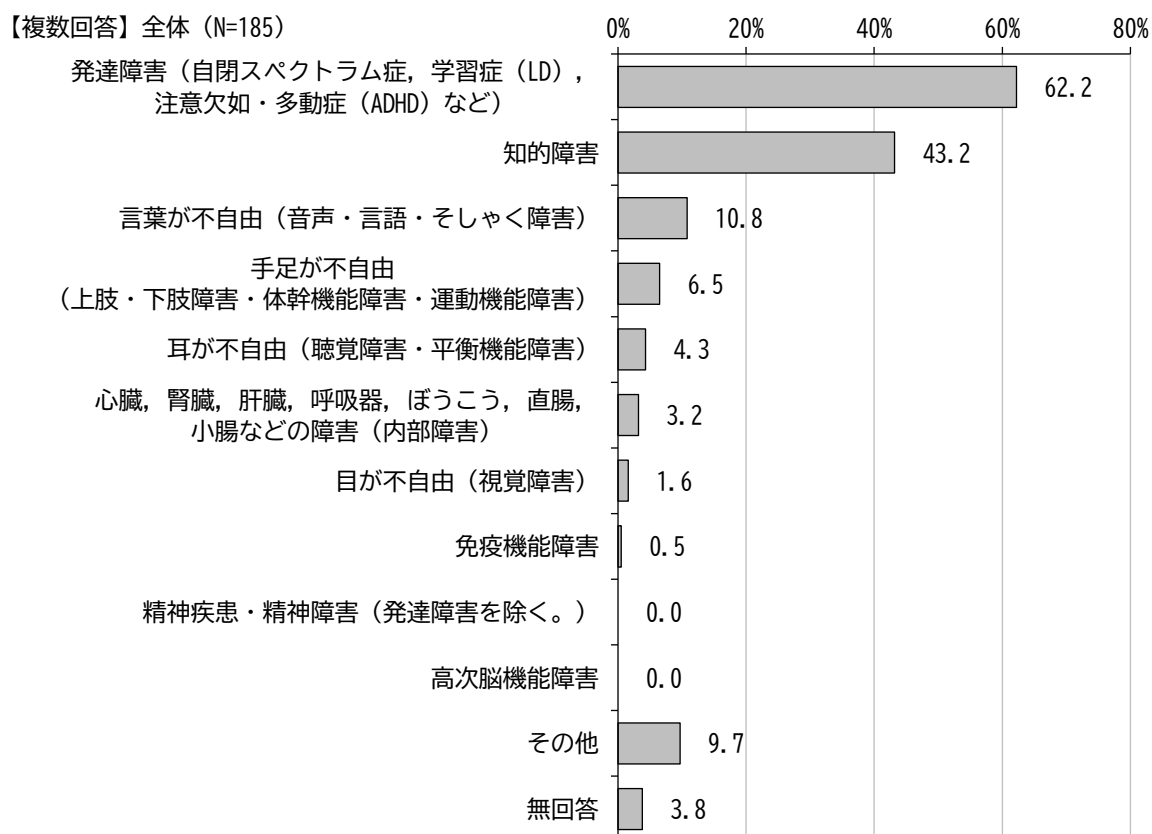


・精神障害者保健福祉手帳



問9 あて名のお子さんは、どのような病気や障害がありますか。(いくつでも○)
 ※特定医療費（指定難病）受給者証，小児慢性特定疾病医療受給者証をもつ人は，
 「11 その他」の欄に病名をご記入ください。

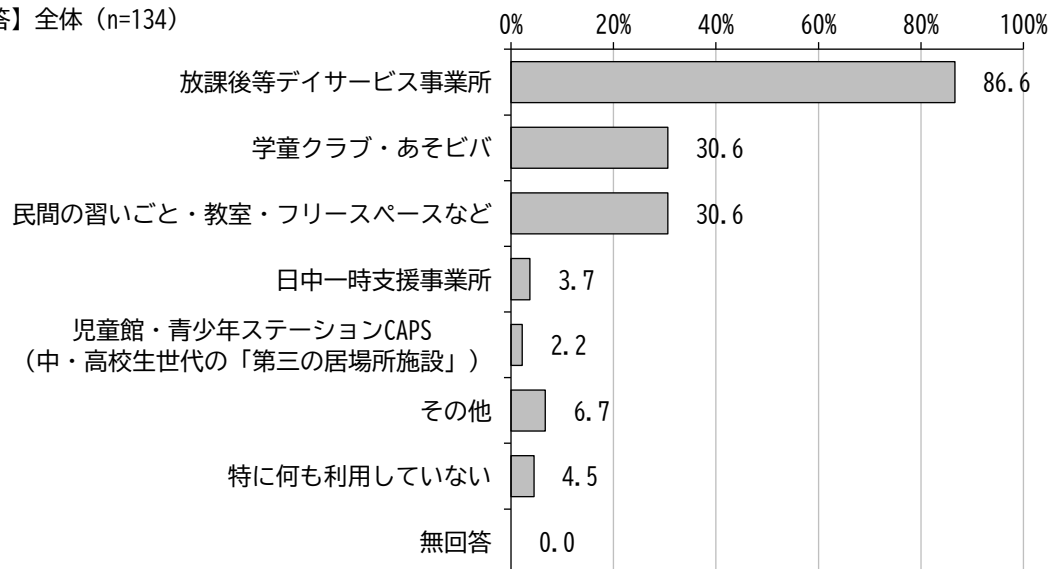
- お子さんの病気や障害の種類は、「発達障害（自閉スペクトラム症，学習症（LD），注意欠如・多動症（ADHD）など）（62.2%）」が最も多く，「知的障害（43.2%）」，「言葉が不自由（音声・言語・そしゃく障害）（10.8%）」が続いている。



問 10 あて名のお子さんが小学校就学後の保護者の方におたずねします。あて名のお子さんは、現在、学校以外の時間でどのようなサービスや施設などを利用して過ごしていますか。(いくつでも○)

- 学校以外のサービス、施設等の利用状況は、「放課後等デイサービス事業所 (86.6%)」が最も多く、「学童クラブ・あそびバ (30.6%)」「民間の習いごと・教室・フリースペースなど (30.6%)」が続いている。

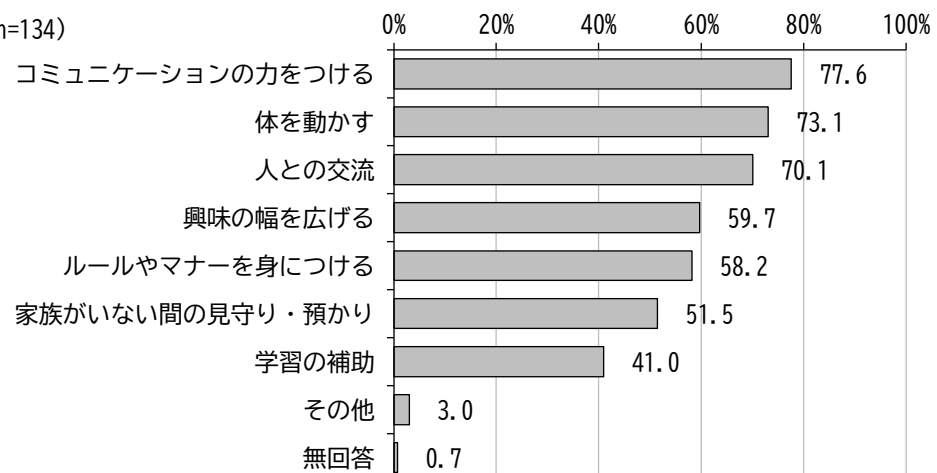
【複数回答】全体 (n=134)



問 11 あて名のお子さんが小学校就学後の保護者の方におたずねします。あて名のお子さんの放課後活動に求めていることはありますか。(いくつでも○)

- 保護者がお子さんの放課後活動に求めていることは、「コミュニケーションの力をつける (77.6%)」が最も多く、「体を動かす (73.1%)」,「人との交流 (70.1%)」が続いている。

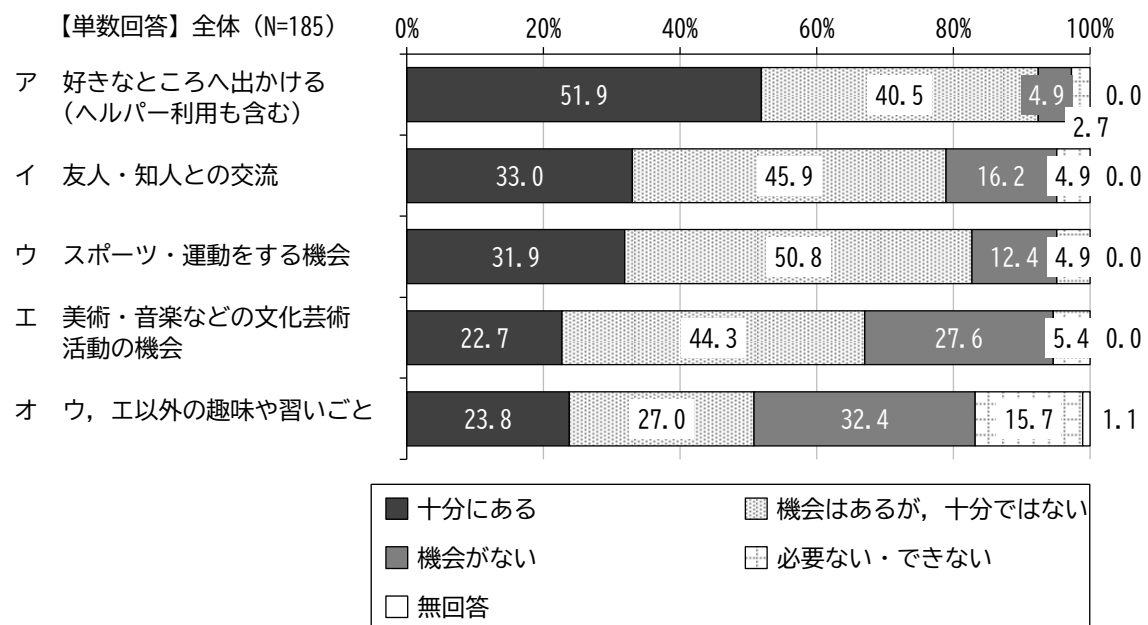
【複数回答】全体 (n=134)



問 12 あて名のお子さんは、普段の生活の中で、次のような機会がありますか。
(それぞれ1つに○)

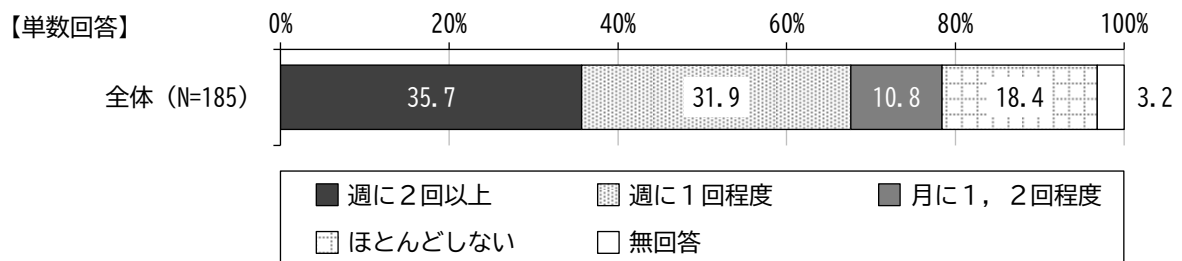
- お子さんの普段の生活の中の活動機会について、「十分にある」の割合は、[ア 好きなところへ出かける（ヘルパー利用も含む）（51.9%）] が最も多くなっている。
- 一方、「機会はあるが、十分ではない」と「機会がない」の割合の合計が「十分にある」を上回る活動は、[イ 友人・知人との交流] [ウ スポーツ・運動※をする機会] [エ 美術・音楽などの文化芸術活動※の機会] [オ ウ、エ以外の趣味や習いごと] となっている。

※本調査における「スポーツ・運動」とは、ウォーキング、体操、ヨガなど、競技だけでなく健康づくりのための活動も含む。「文化芸術活動」とは、絵を描くこと、美術館・博物館などに行くこと、歌を歌ったり、演奏したりすることを含む。



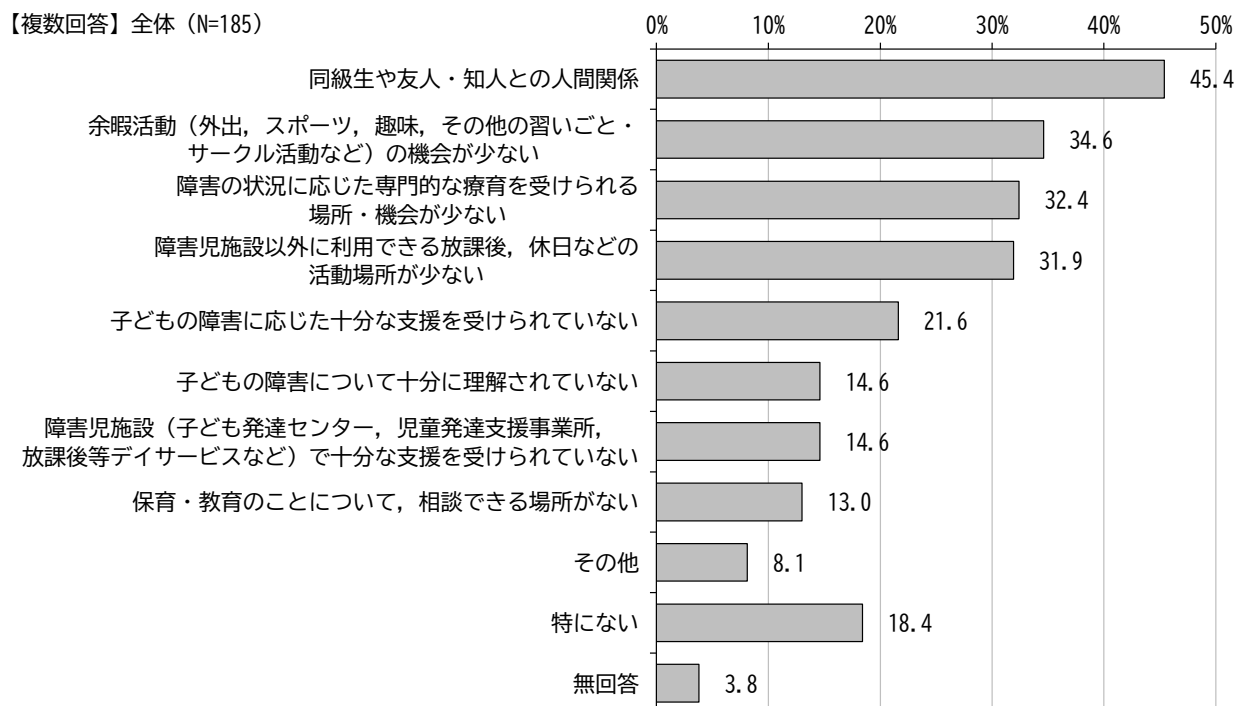
問 13 あて名のお子さんは、スポーツ・運動をする機会はどのくらいありますか。
(1つに○)

- お子さんのスポーツ・運動をする頻度は、「週に2回以上 (35.7%)」が最も多く、「週に1回程度 (31.9%)」、「ほとんどしない (18.4%)」が続いている。



問 14 あて名のお子さんの日常生活で不安や課題と感じていることはありますか。
(いくつでも○)

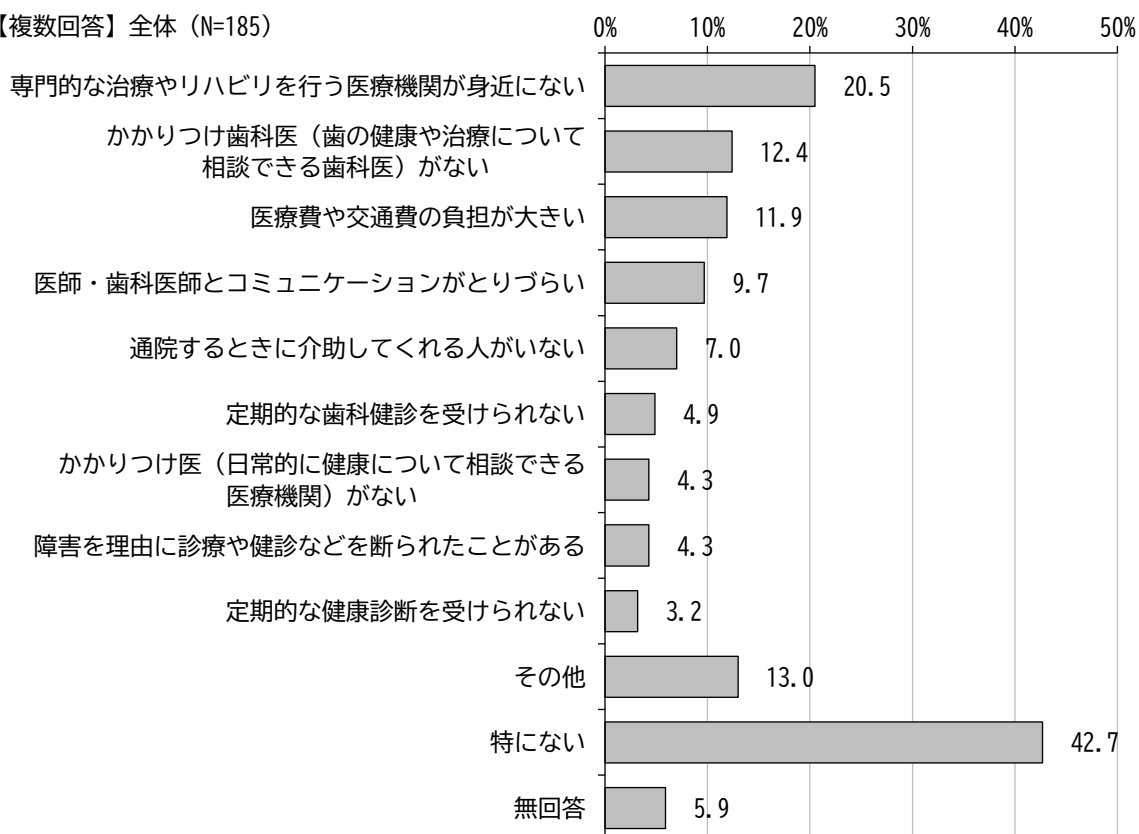
- お子さんの日常生活で不安や課題と感じていることは、「同級生や友人・知人との人間関係 (45.4%)」が最も多く、「余暇活動 (外出, スポーツ, 趣味, その他の習いごと・サークル活動など) の機会が少ない (34.6%)」、「障害の状況に応じた専門的な療育を受けられる場所・機会が少ない (32.4%)」が続いている。



問 15 あて名のお子さんについて、医療機関（歯科を含む）の受診で困ることはありますか。（いくつでも○）

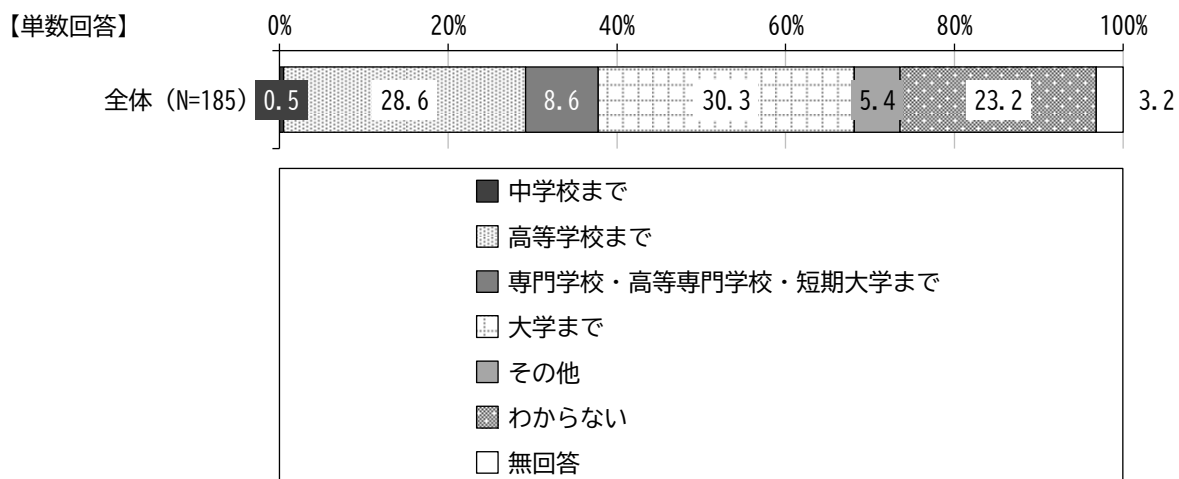
- お子さんの医療機関（歯科を含む）の受診で困ることは、「特にない（42.7%）」が最も多く、「専門的な治療やリハビリを行う医療機関が身近にない（20.5%）」が続いている。

【複数回答】全体（N=185）



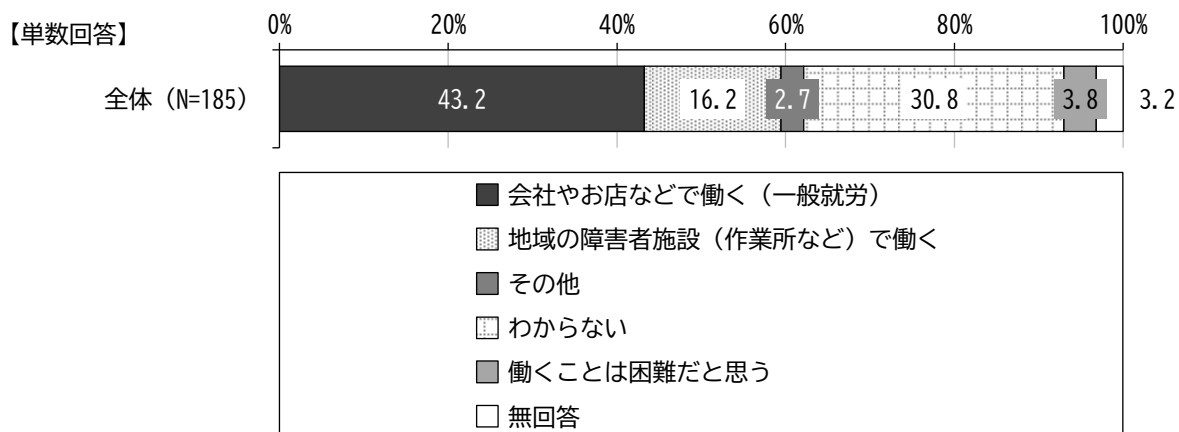
問 16 将来、あて名のお子さんに、どのような進学先を希望していますか。(1つに○)

- 希望するお子さんの進学先は、「大学まで (30.3%)」が最も多く、「高等学校まで (28.6%)」,「わからない (23.2%)」が続いている。



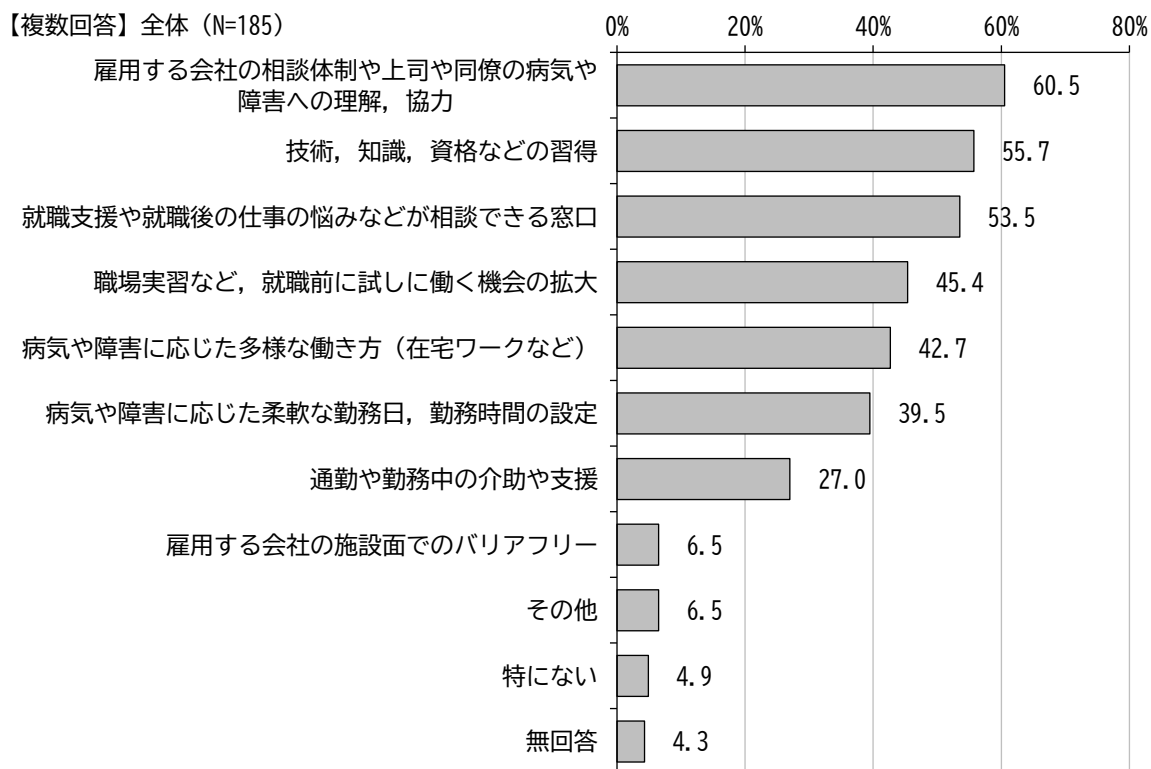
問 17 将来、あて名のお子さんに、どのような働き方を希望していますか。(1つに○)

- 希望するお子さんの働き方は、「会社やお店などで働く (一般就労) (43.2%)」が最も多く、「わからない (30.8%)」,「地域の障害者施設 (作業所など) で働く (16.2%)」が続いている。



問 18 あて名のお子さんが仕事をするために、必要と思うことは何ですか。
(いくつでも○)

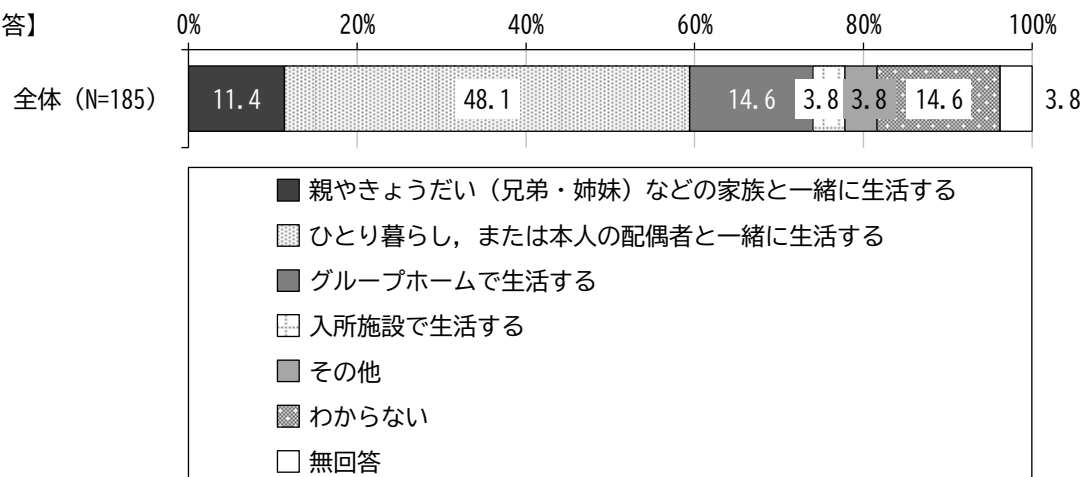
- お子さんが仕事をするために必要なことは、「雇用する会社の相談体制や上司や同僚の病気や障害への理解，協力（60.5%）」が最も多く，「技術，知識，資格などの習得（55.7%）」，「就職支援や就職後の仕事の悩みなどが相談できる窓口（53.5%）」が続いている。



問 19 将来、あて名のお子さんに、どのような生活を希望しますか。(1つに○)

- 希望するお子さんの暮らし方は、「ひとり暮らし、または本人の配偶者と一緒に生活する(48.1%)」が最も多く、「グループホームで生活する(14.6%)」「わからない(14.6%)」が続いている。

【単数回答】

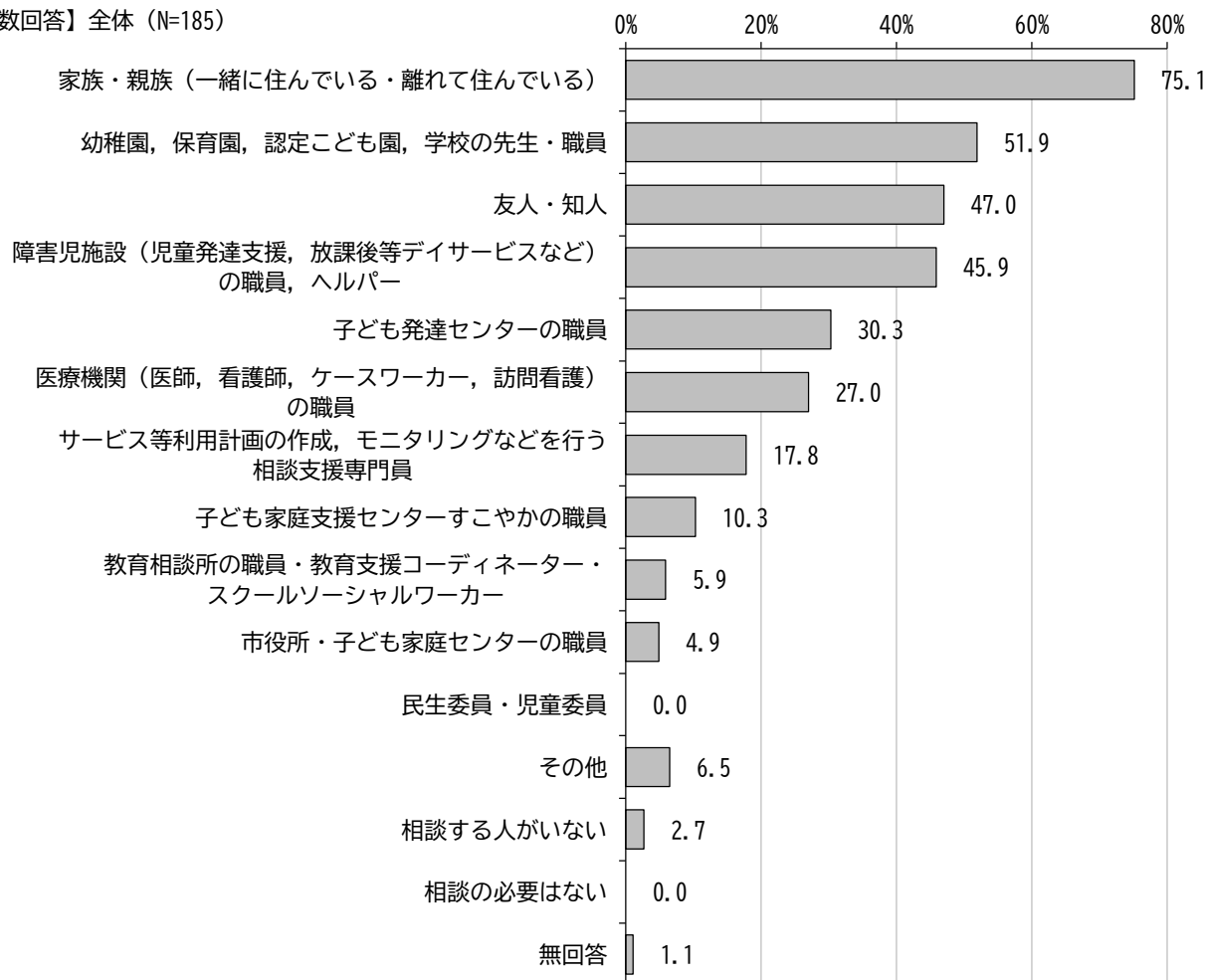


3 保護者の方に、相談支援についておたずねします

問 20 あなた（保護者）が悩みや困りごとを相談できる人や機関はありますか。
（いくつでも○）

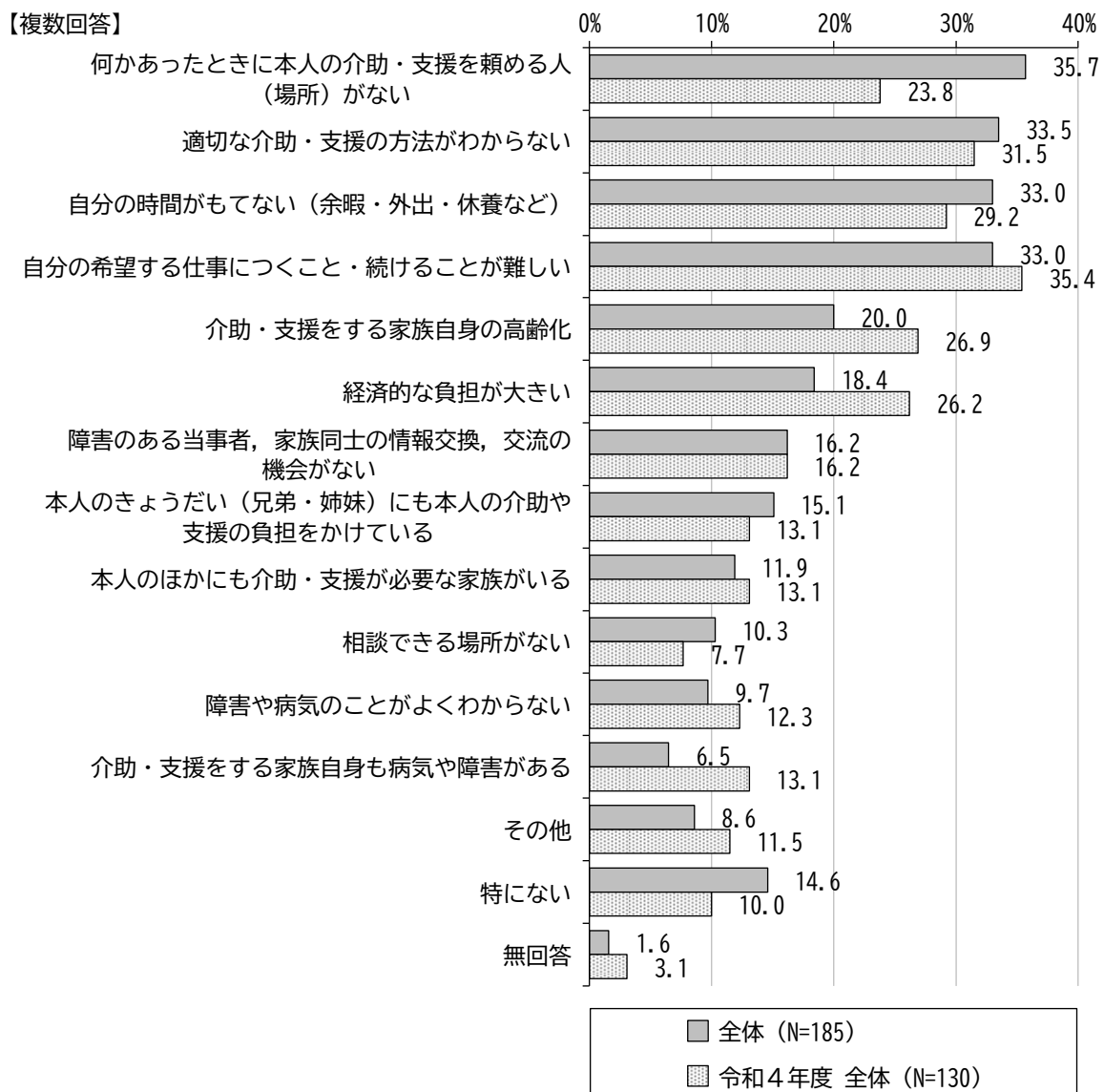
- 保護者が悩みや困りごとを相談できる人や機関は、「家族・親族（一緒に住んでいる・離れて住んでいる）（75.1%）」が最も多く、「幼稚園，保育園，認定こども園，学校の先生・職員（51.9%）」、「友人・知人（47.0%）」が続いている。

【複数回答】全体（N=185）



問 21 あなた（保護者）は、介助や支援にあたってどのような不安や困りごとがありますか。（いくつでも○）

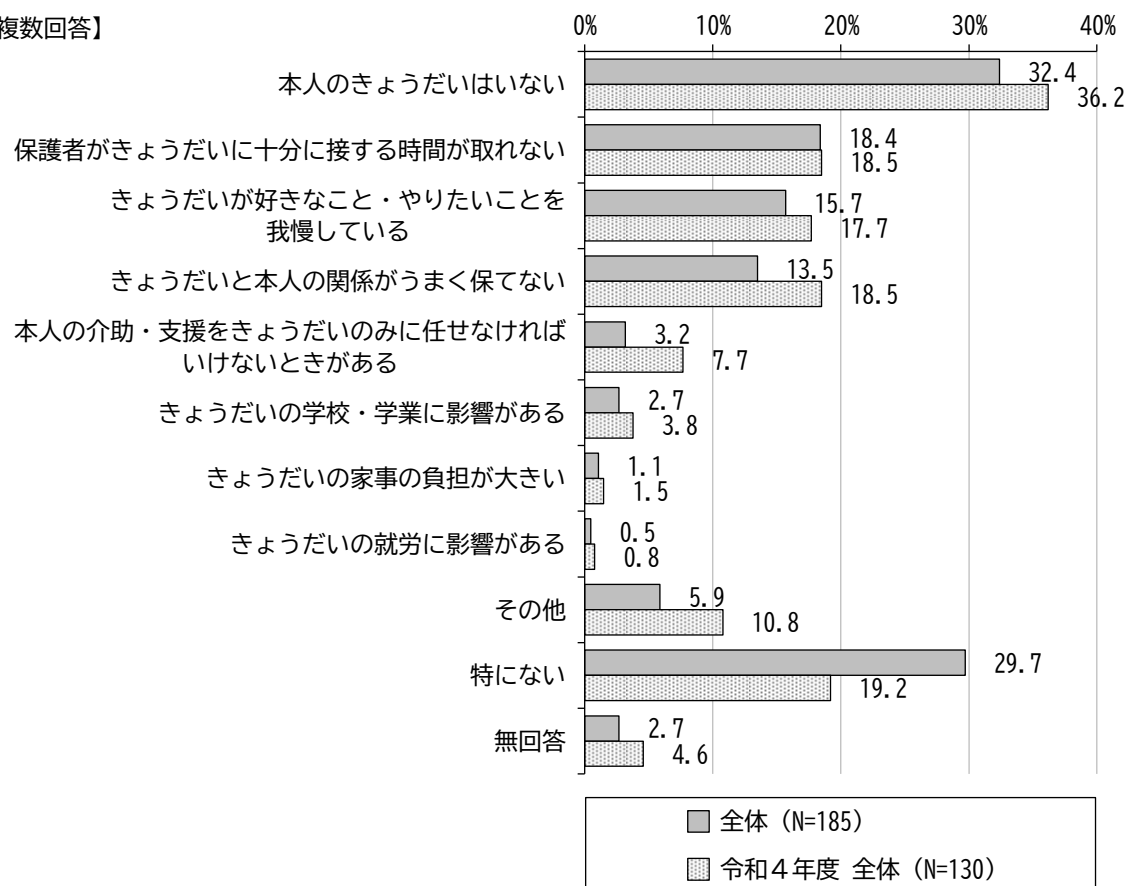
- 介助や支援にあたっての不安や困りごとは、「何かあったときに本人の介助・支援を頼める人（場所）がない（35.7%）」が最も多く、「適切な介助・支援の方法がわからない（33.5%）」、「自分の時間がもてない（余暇・外出・休養など）（33.0%）」「自分の希望する仕事につくこと・続けることが難しい（33.0%）」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、「何かあったときに本人の介助・支援を頼める人（場所）がない」が11.9ポイント高く、「経済的な負担が大きい」が7.8ポイント、「介助・支援をする家族自身の高齢化」が6.9ポイント、「介助・支援をする家族自身も病気や障害がある」が6.6ポイント低くなっている。



問 22 本人の介助・支援に関連し、本人のきょうだい（兄弟・姉妹）についてどのような不安や困りごとがありますか。（いくつでも○）

- お子さんのきょうだい（兄弟・姉妹）についての不安や困りごとは、「本人のきょうだいはいない（32.4%）」が最も多く、「特にない（29.7%）」、「保護者がきょうだいに十分に接する時間が取れない（18.4%）」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、「特にない」が10.5ポイント高くなっている。

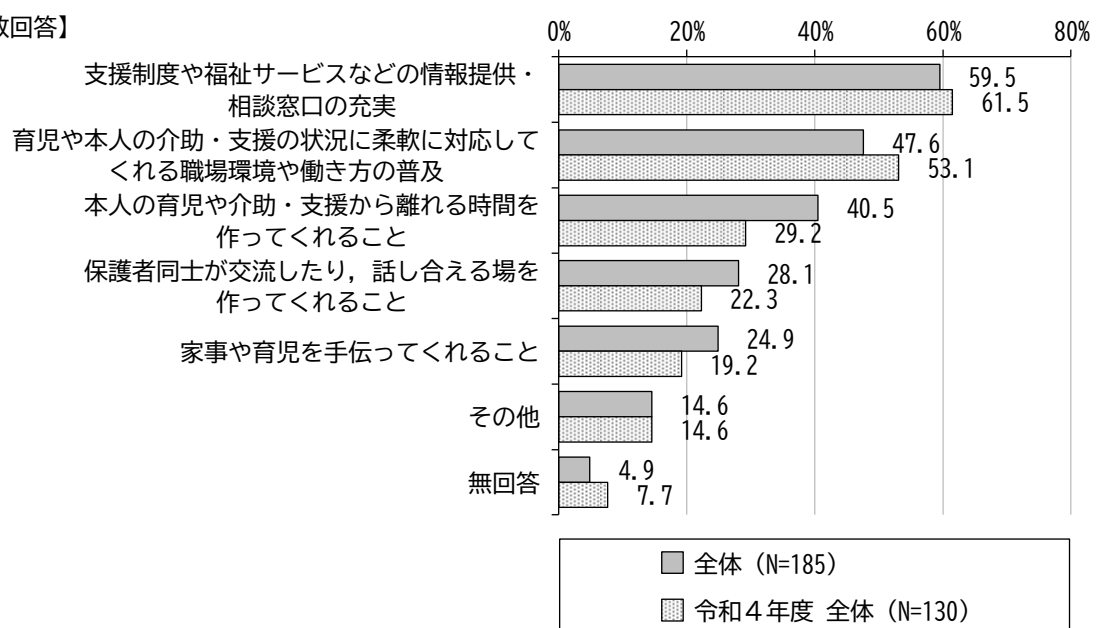
【複数回答】



問 23 保護者への支援として力を入れてほしいことは何ですか。(いくつでも○)

- 保護者への支援として力を入れてほしいことは、「支援制度や福祉サービスなどの情報提供・相談窓口の充実 (59.5%)」が最も多く、「育児や本人の介助・支援の状況に柔軟に対応してくれる職場環境や働き方の普及 (47.6%)」、「本人の育児や介助・支援から離れる時間を作ってくれること (40.5%)」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、「本人の育児や介助・支援から離れる時間を作ってくれること」が 11.3 ポイント、「保護者同士が交流したり，話し合える場を作ってくれること」が 5.8 ポイント，「家事や育児を手伝ってくれること」が 5.7 ポイント高く，「育児や本人の介助・支援の状況に柔軟に対応してくれる職場環境や働き方の普及」が 5.5 ポイント低くなっている。

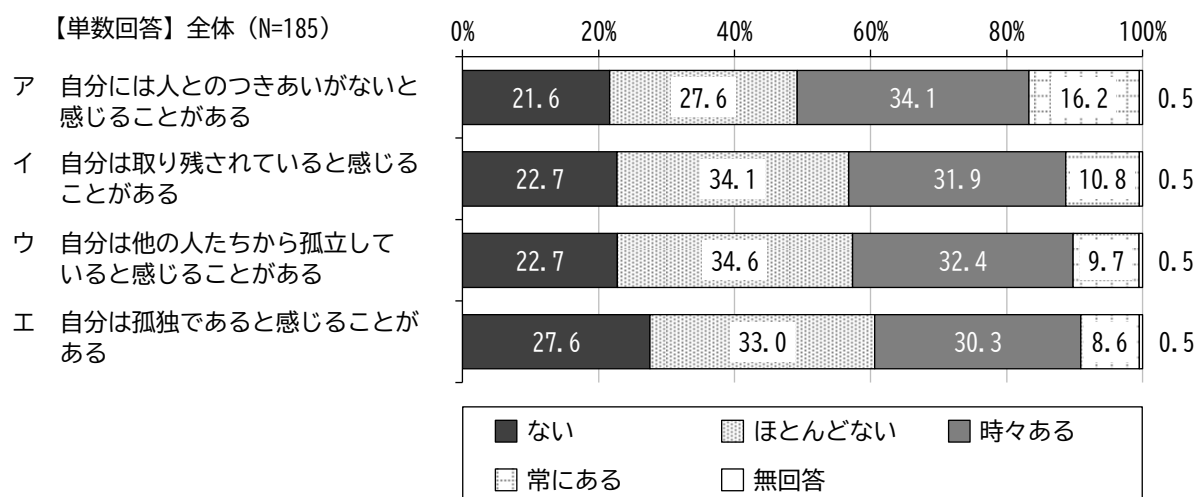
【複数回答】



4 保護者の方に、日頃のコミュニケーションについておたずねします

問 24 次の項目についてあなたはどれくらいの頻度で感じていますか。
(それぞれ1つに○)

- 孤独・孤立の状況について、「時々ある」と「常にある」を合わせた『ある』の割合は、
[ア 自分には人とのつきあいが無いと感ずることがある (50.3%)] が最も多く、[イ 自分は取り残されていると感ずることがある (42.7%)], [ウ 自分は他の人たちから孤立していると感ずることがある (42.1%)] が続いている。



－ 孤独感尺度 －

- 「UCLA孤独感尺度（日本語版の3項目短縮版）」（本編 25 ページ参照）による間接質問のスコア化の結果は以下の表のとおりである（サンプル（n）数が少ないため、コメントは割愛）。

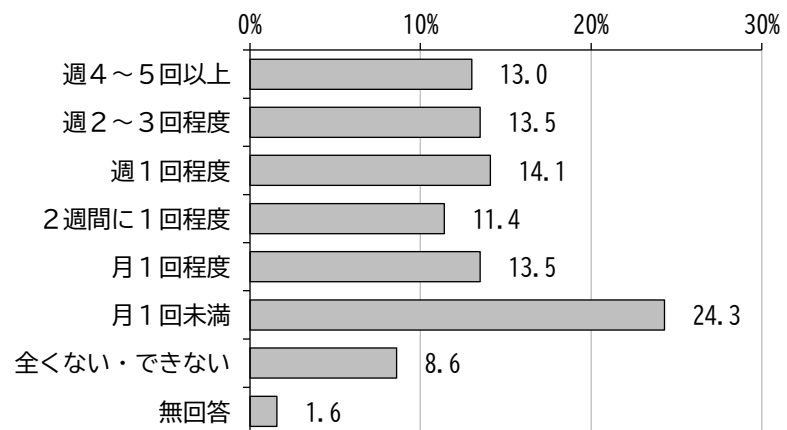
単位：％		決してない	ほとんどない	時々ある	常にある	無回答
全体 (N=185)		15.1	25.9	41.1	17.3	0.5
年代別	10歳代 (n=2)	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	30歳代 (n=45)	15.6	26.7	42.2	15.6	0.0
	40歳代 (n=108)	16.7	23.1	41.7	18.5	0.0
	50歳代 (n=27)	11.1	25.9	40.7	18.5	3.7
	60歳代 (n=1)	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0

問 25 家族や友人たちとのコミュニケーション頻度についておたずねします。あなたと同じ
居していない家族や友人たちとのコミュニケーション頻度について、お答えください。
(それぞれ1つに○)

ア 直接会って話す（手話等を含む）

- 直接会って話す（手話等を含む）頻度は、「月1回未満（24.3%）」が最も多く、「週1
回程度（14.1%）」、「週2～3回程度（13.5%）」「月1回程度（13.5%）」が続いている。

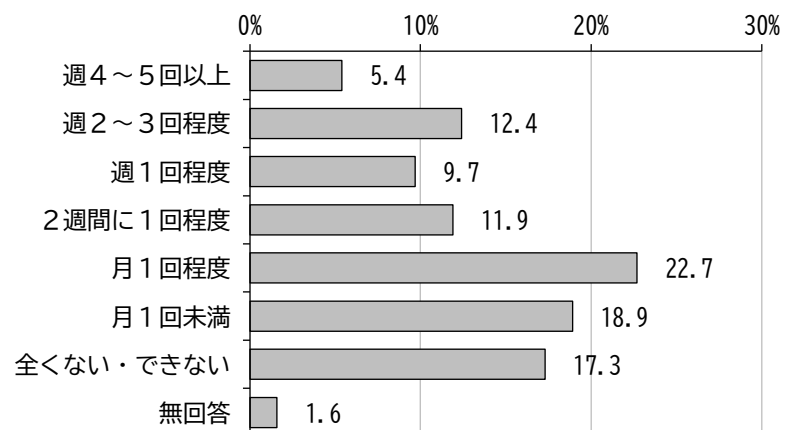
【単数回答】全体（N=185）



イ 電話（ビデオ通話含む）

- 電話（ビデオ通話含む）の頻度は、「月1回程度（22.7%）」が最も多く、「月1回未満
（18.9%）」、「全くない・できない（17.3%）」が続いている。

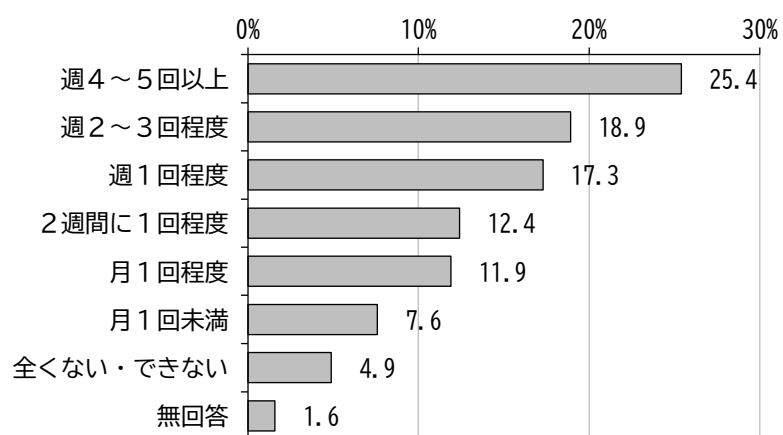
【単数回答】全体（N=185）



ウ SNSや電子メールなど

- SNSや電子メールなどの頻度は、「週4～5回以上（25.4%）」が最も多く、「週2～3回程度（18.9%）」、「週1回程度（17.3%）」が続いている。

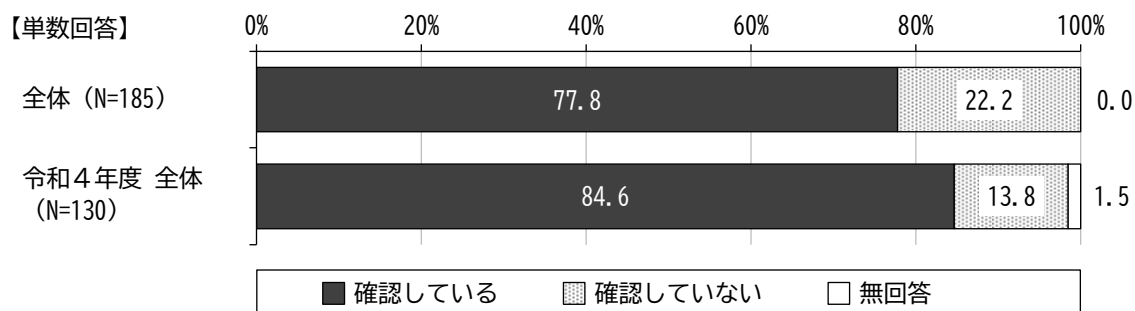
【単数回答】全体（N=185）



5 保護者の方に、災害時の対策についておたずねします

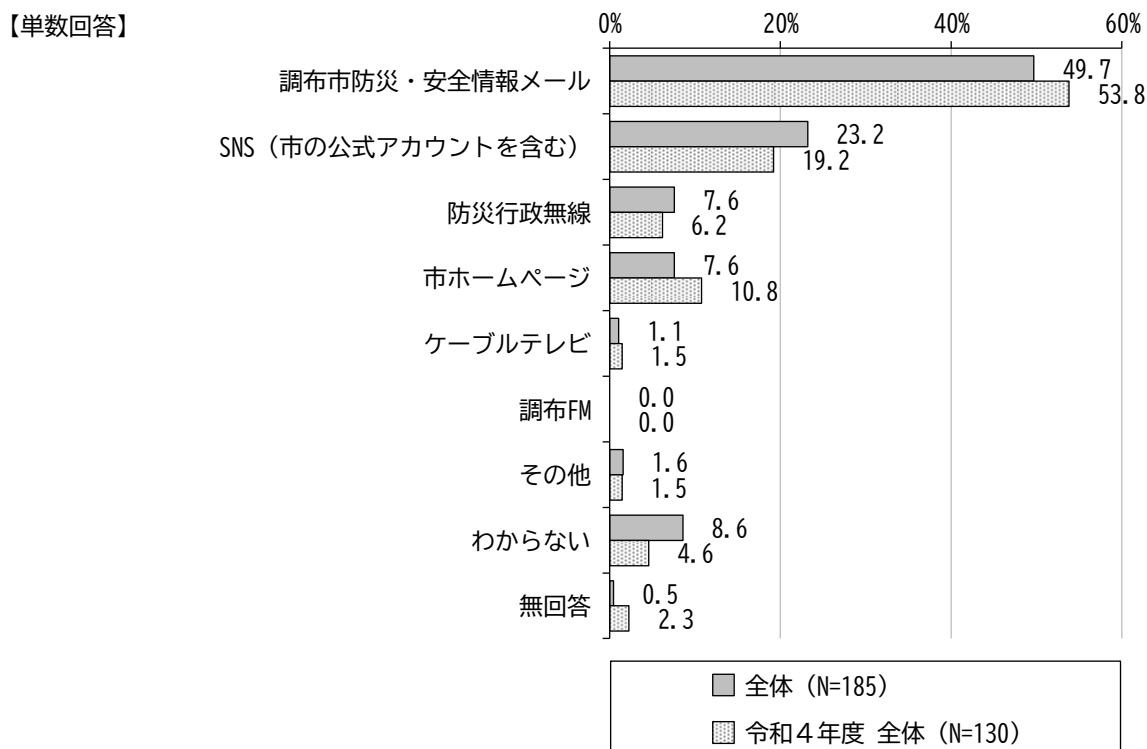
問 26 あなた（保護者）は、防災マップや洪水ハザードマップなどで避難場所・避難経路・警戒区域などを確認していますか。（1つに○）

- 避難場所・避難経路・警戒区域などの確認状況は、「確認している（77.8%）」、「確認していない（22.2%）」である。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、「確認していない」が8.4ポイント高くなっている。



問 27 あなた（保護者）は、災害や火災などの緊急の際、避難情報を主にどこからとりますか。（1つに○）

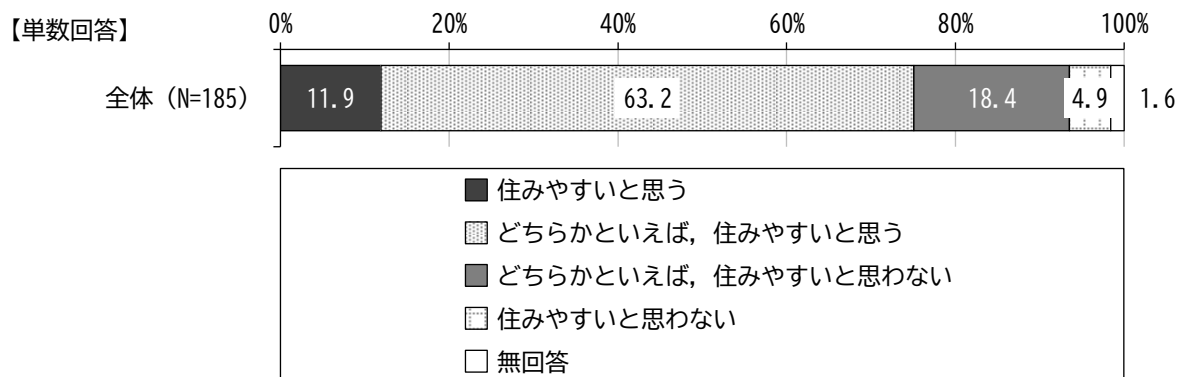
- 緊急時の避難情報の入手先は、「調布市防災・安全情報メール（49.7%）」が最も多く、「SNS（市の公式アカウントを含む）（23.2%）」、「わからない（8.6%）」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、大きな変化はみられない。



6 保護者の方に、誰もが暮らしやすいまちづくりについておたずねします

問 28 調布のまちは、障害（身体障害、知的障害、精神障害、難病など）のある人にとって、福祉サービス、バリアフリー、市民意識などを総合的に考え、住みやすいまちであると感じますか。（1つに○）

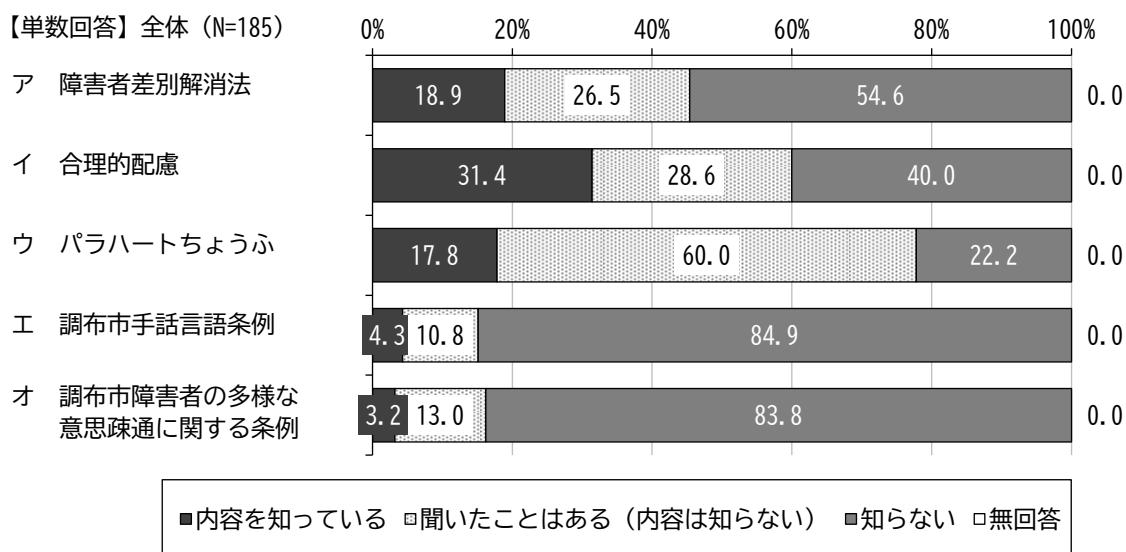
- 調布のまちは障害のある人にとって住みやすいまちであると感じるかについて、「住みやすいと思う」と「どちらかといえば、住みやすいと思う」を合わせた『住みやすいと思う』の割合は75.1%となっている。



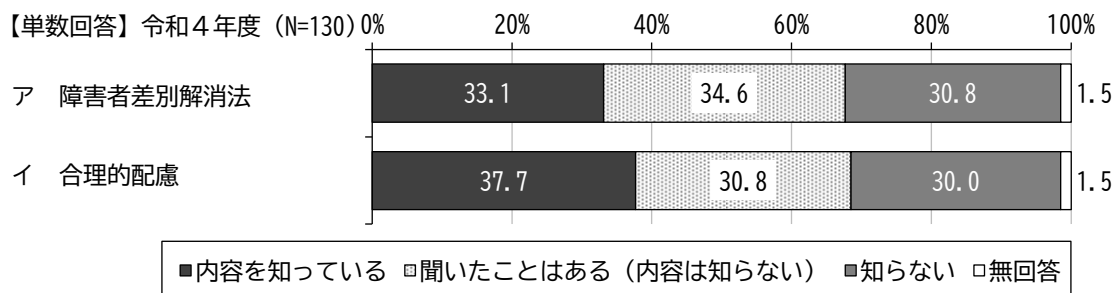
問 29 共生社会の充実のための法律や考え方，調布市が令和6年度に制定した2つの条例を知っていますか。（それぞれ1つに○）

- 共生社会の充実のための法律や考え方について、「内容を知っている」の割合は，[イ 合理的配慮（31.4%）] が最も多く，[ア 障害者差別解消法（18.9%）]，[ウ パラハートちょうふ（17.8%）] が続いている。市が令和6年度に制定した2つの条例について，「内容を知っている」の割合は，[エ 調布市手話言語条例（4.3%）]，[オ 調布市障害者の多様な意思疎通に関する条例（3.2%）] が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると，[ア 障害者差別解消法] の「知らない」の割合は23.8ポイント高く，[イ 合理的配慮] の「知らない」も10ポイント高くなっている。

【単数回答】全体（N=185）



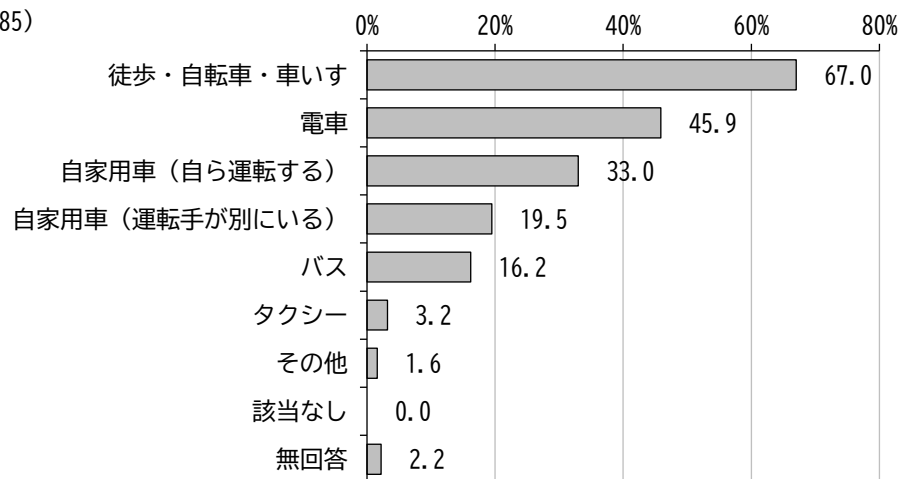
【単数回答】令和4年度（N=130）



問 30 外出時に使用している主な移動手段は何ですか。(2つまで○)

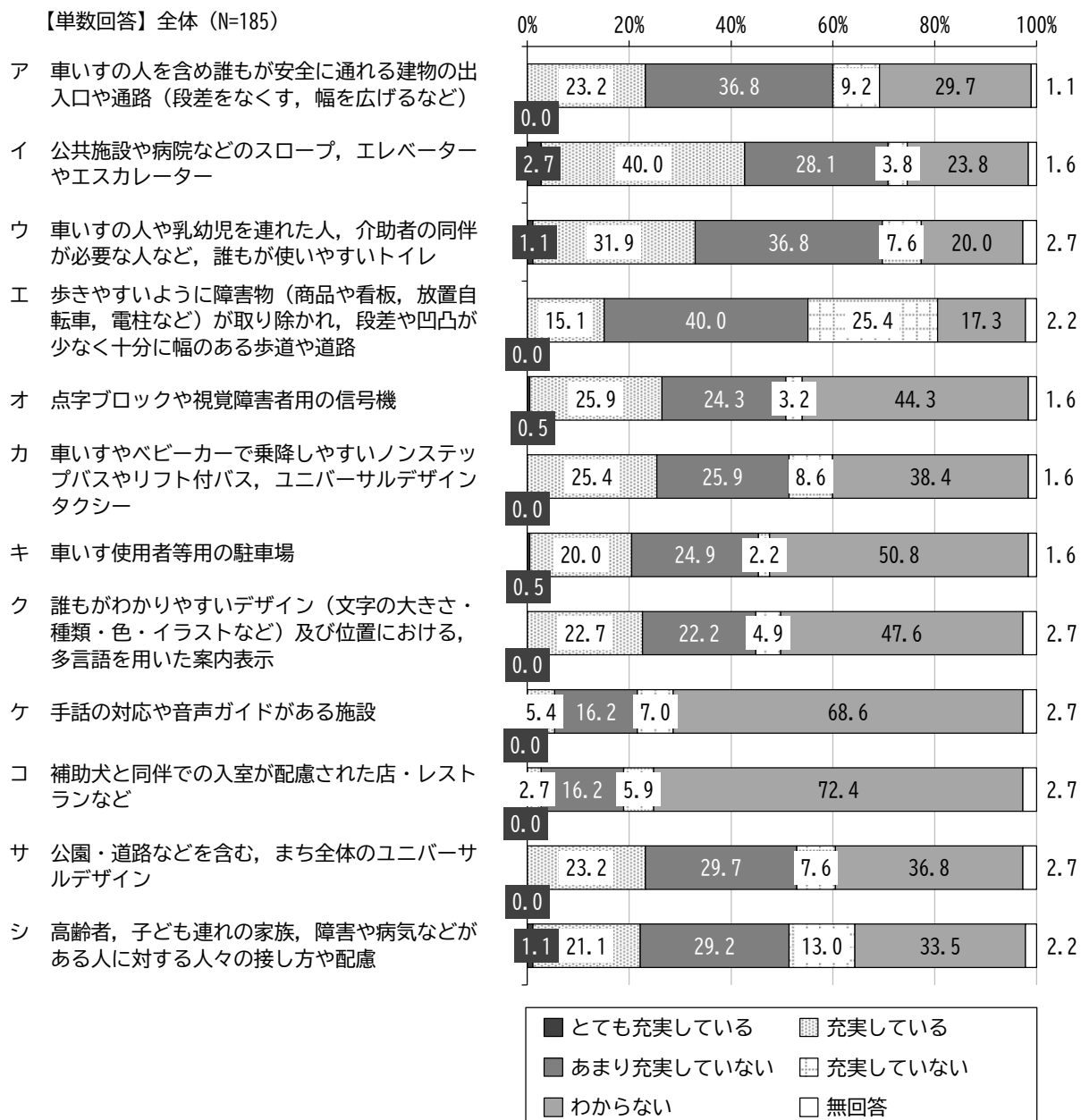
- 外出時に使用している主な移動手段は、「徒歩・自転車・車いす(67.0%)」が最も多く、「電車(45.9%)」、「自家用車(自ら運転する)(33.0%)」が続いている。

【複数回答】全体(N=185)



問 31 市内のバリアフリー・ユニバーサルデザインについて、どのように感じていますか。
(それぞれ1つに○)

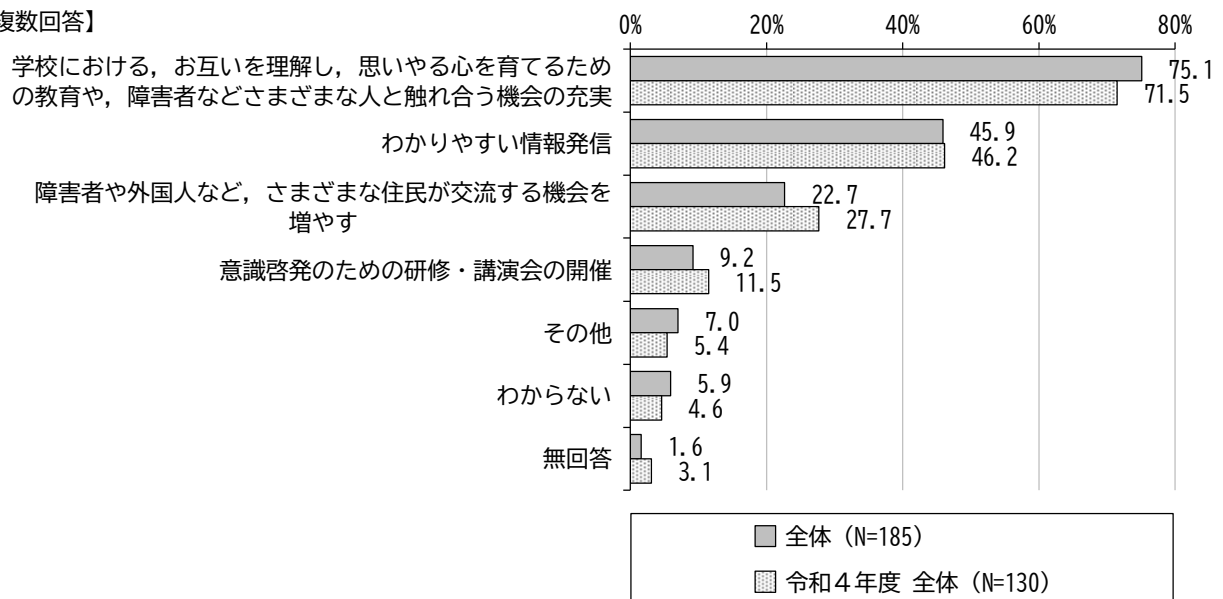
- 市内のバリアフリー・ユニバーサルデザインの状況について、「とても充実している」と「充実している」を合わせた『充実している』の割合は、[イ 公共施設や病院などのスロープ、エレベーターやエスカレーター (42.7%)] が最も多く、[ウ 車いすの人や乳幼児を連れた人、介助者の同伴が必要な人など、誰もが使いやすいトイレ (33.0%)] が続いている。
- 一方、「あまり充実していない」と「充実していない」を合わせた『充実していない』の割合は、[エ 歩きやすいように障害物（商品や看板、放置自転車、電柱など）が取り除かれ、段差や凹凸が少なく十分に幅のある歩道や道路 (65.4%)] が最も多く、[ア 車いすの人を含め誰もが安全に通れる建物の出入口や通路（段差をなくす、幅を広げるなど） (46.0%)] が続いている。



問 32 誰もが暮らしやすいまちづくりに向けて、病気・障害・国籍・生活習慣などの違いによる心理的な障壁を取り除く（心のバリアフリー）ために、特に必要な取組は何だと思いますか。（2つまで○）

- 心のバリアフリーのために特に必要な取組は、「学校における、お互いを理解し、思いやる心を育てるための教育や、障害者などさまざまな人と触れ合う機会の充実（75.1%）」が最も多く、「わかりやすい情報発信（45.9%）」、「障害者や外国人など、さまざまな住民が交流する機会を増やす（22.7%）」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、大きな変化はみられない。

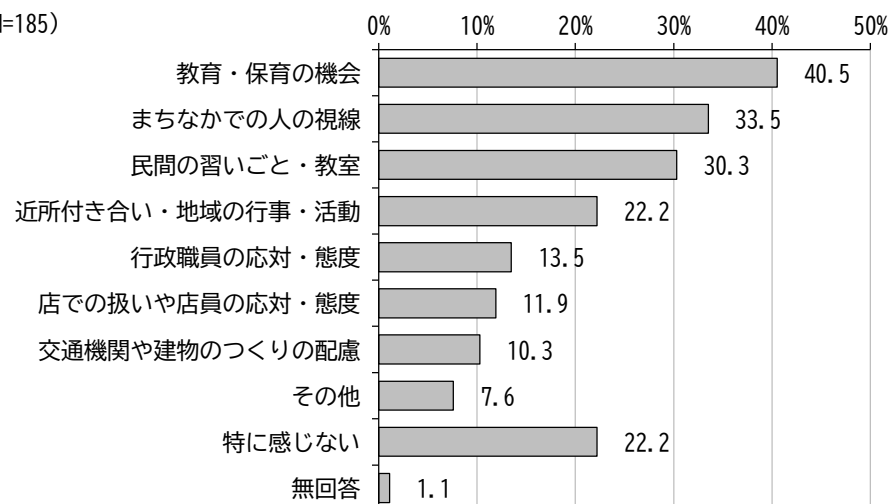
【複数回答】



問 33 あなた（保護者）は、お子さんが生活する中で、障害や病気への差別や偏見、配慮のなさを感じることはありませんか。（いくつでも○）

- お子さんの障害や病気への差別や偏見、配慮のなさを感じる場面は、「教育・保育の機会（40.5%）」が最も多く、「まちなかでの人の視線（33.5%）」、「民間の習いごと・教室（30.3%）」が続いている。

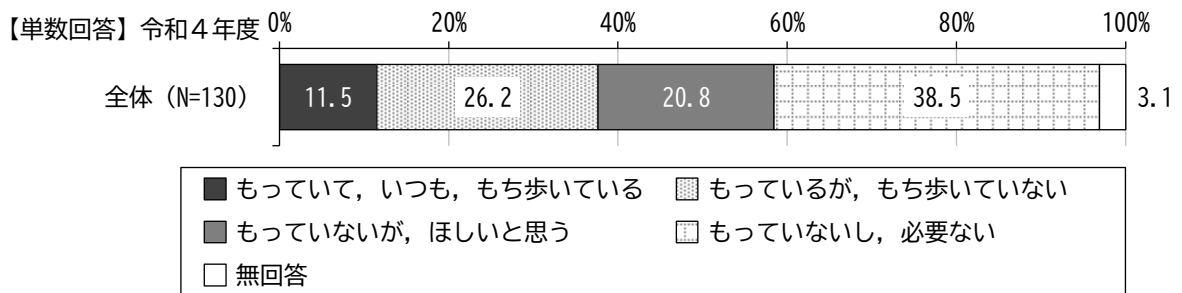
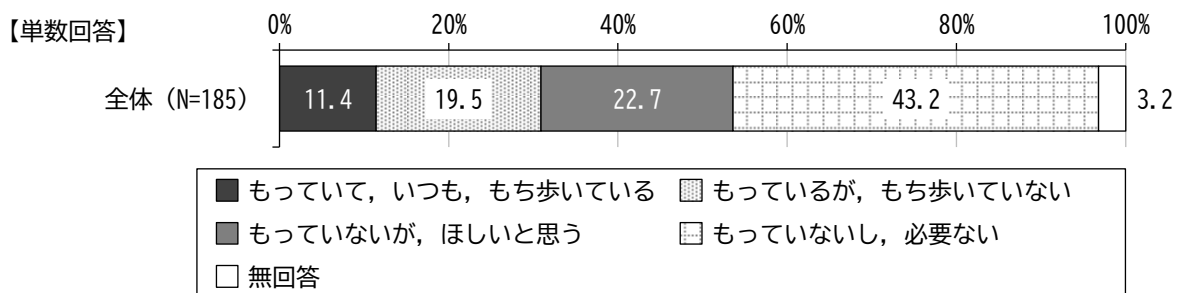
【複数回答】全体 (N=185)



問 34 お子さんは、調布市が配布しているヘルプカード、ヘルプマークを持っていますか。
(それぞれ1つに○)

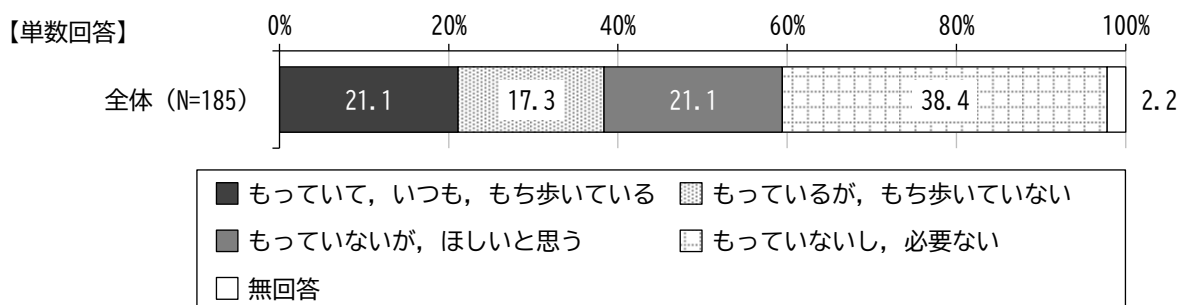
①ヘルプカード

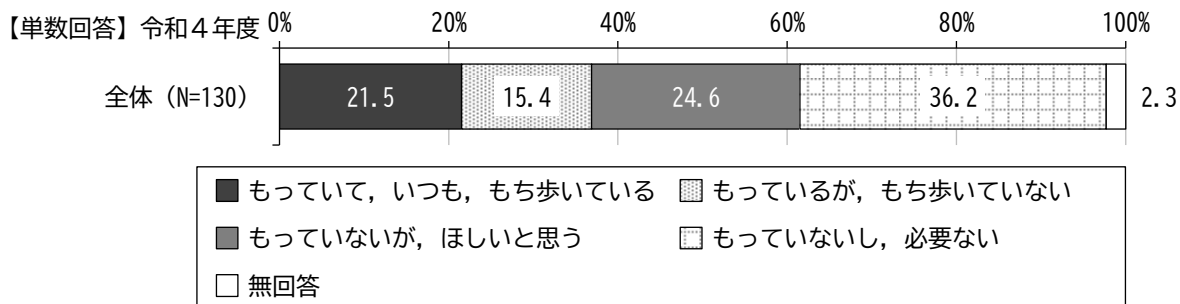
- ヘルプカードの所持状況は、「もっていないし、必要ない (43.2%)」が最も多く、「もっていないが、ほしいと思う (22.7%)」、「もっているが、もち歩いていない (19.5%)」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、「もっているが、もち歩いていない」が6.7ポイント低く、「もっていないが、ほしいと思う」と「もっていないし、必要ない」を合わせた『もっていない』が6.6ポイント高くなっている。



②ヘルプマーク

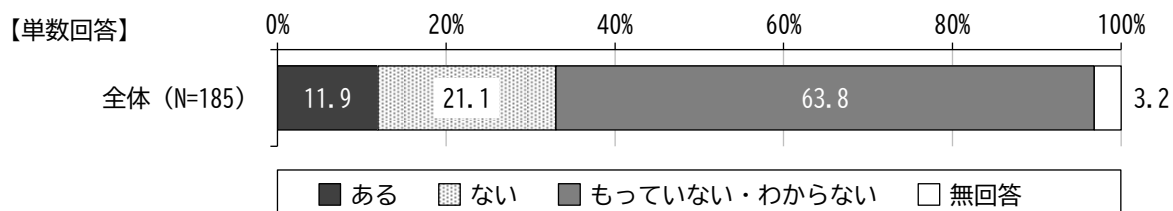
- ヘルプマークの所持状況は、「もっていないし、必要ない (38.4%)」が最も多く、「もっているが、もち歩いていない (17.3%)」、「もっていないが、ほしいと思う (21.1%)」、「もっていて、いつも、もち歩いている (21.1%)」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、大きな変化はみられない。





問 35 お子さんは、ヘルプカードやヘルプマークをもっていることで、周囲の人に配慮してもらったり、手助けをしてもらったりしたことがありますか。(1つに○)

- ヘルプカードやヘルプマークをもっていることで、周囲の人に配慮してもらったり、手助けをしてもらったりした経験は、「もっていない・わからない (63.8%)」が最も多く、「ない (21.1%)」, 「ある (11.9%)」が続いている。

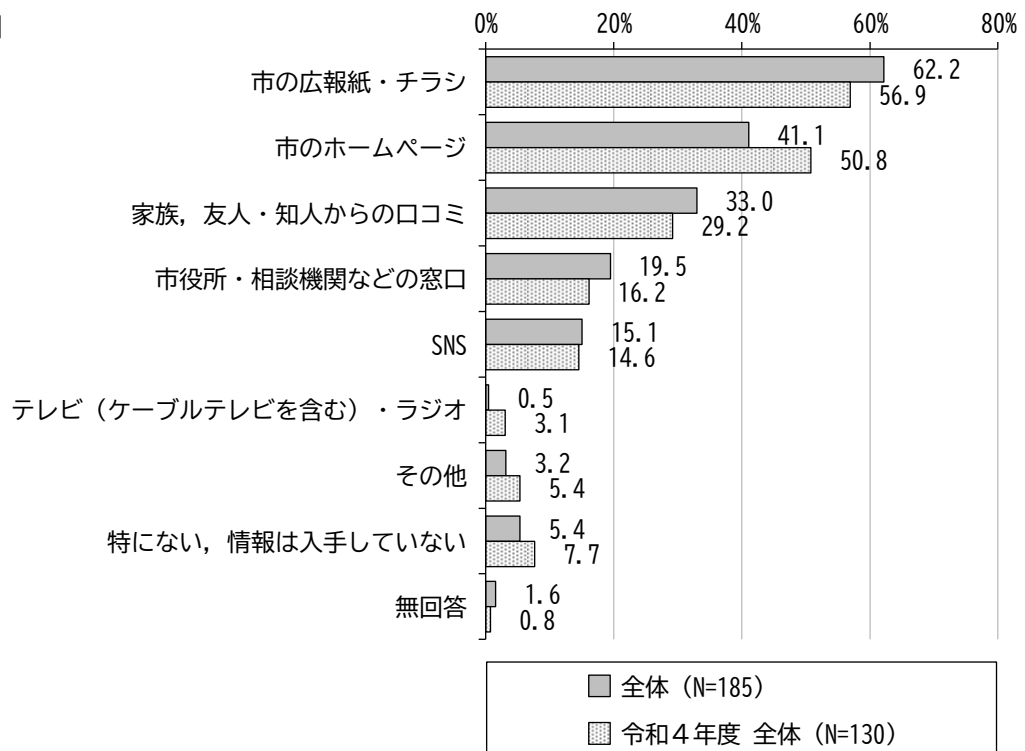


7 保護者の方に、デジタルの活用についておたずねします

問 36 あなた（保護者）は、調布市の保健福祉施策（サービス）に関する情報をどこから入手していますか。（いくつでも○）

- 市の保健福祉施策（サービス）に関する情報の入手先は、「市の広報紙・チラシ（62.2%）」が最も多く、「市のホームページ（41.1%）」、「家族、友人・知人からの口コミ（33.0%）」が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、「市の広報紙・チラシ」が5.3ポイント高く、「市のホームページ」が9.7ポイント低くなっている。

【複数回答】



問 37 お子さんやあなた（保護者）がスマートフォンなどの情報端末やパソコンなどを使ってほしいこと、暮らしの利便性を高めるアイデアがございましたら、教えてください。（自由記述）

- スマートフォンなどの情報端末やパソコンなどを使ってほしいこと、暮らしの利便性を高めるアイデアについてのご意見、ご提案を自由記述形式でたずねたところ、31 件の回答があった。以下に項目別の意見数を掲載する。

項目	意見区分	意見数
ア 教育のデジタル化		8
イ 市のデジタル化	①申請などのデジタル化 ②情報提供の充実	21
ウ その他		2
合計		31

- 項目別に意見を抜粋して掲載する（原文通り）。 ※性別はお子さん

ア 教育のデジタル化

- 生活の中で使える絵，そういうカードがあるのは知っているのですが，使ったことはなく，スマホで見せることができれば便利だと思う。（男性，小学校就学前）
- 就業施設の募集人数，空き一覧の提示や，空きが出た際に登録をしていれば通知が来るアプリがあれば良い。とにかく高校入学後はずっと進学先があるのかと不安に思う日々なので。口コミもあると良い。「みんなの高校」みたいな…。（男性，小学校就学後）
- 障害がある子どもの利用できる学習支援機関（塾・教室・習い事・放課後デイなどで）が少ないと感じる。日常生活におけるルール（横断歩道の渡り方などの交通ルール，困ったときにどうすればよいか，買い物の仕方など）や特性のあることもが理解できるような学習支援教材などを配信してほしい。調布市の小学校特別支援学級では，理科・社会の授業がない。英語の授業も少ない。何かに興味を持つ可能性があるため，例えば都道府県，生物や動物，宇宙や歴史，ローマ字など，一般的な知識について学習動画などを配信してほしい。（女性，小学校就学後）
- 情報端末を使って，障害を持つ本人の情報を，本人の日常生活を支援してくれる人々が共有できるとよいと思う。本人の体調，最近の健康状態，配慮事項，これまでの経緯はもちろん，支援する上での意思疎通の方法を共有することで，本人も混乱せずさらに表出手段やコミュニケーション能力を伸ばしていけると思う。一定の踏み込んだ情報に関してはパスワード等でしっかり情報開示の管理をしつつ，本人をサポートする人々の認識を揃えるための情報共有ツールとできたらよいと思う。（女性，小学校就学後）

イ 市のデジタル化

①申請などのデジタル化

- 子供の手帳・等級・年齢を登録すると行政上実施する申請や手帳更新のスケジュールや申請書がメール・LINEなどで送られてくるサービス。（男性，小学校就学前）
- ヘルパーさんが利用できるとしたら定期利用に加えてスマホなどで臨時利用の希望が出せて、ヘルパーさんとのマッチングができたら便利だと思う。介護タクシーなども同じく。1件1件予約ができるか電話していかなければならない。（男性，小学校就学後）

②情報提供の充実

- SNSを使って、障害者の方はどんな支援をしてもらえたら嬉しいのか、そして、生きやすく、住みやすくなるのかを視覚的に伝えていく。障害のある方の職場や作業内容を映像で伝える。決して不幸ではなく、幸せである状態を見せる。仕事情報なども発信して地域を活性化させる。見える化しないため、勝手な憶測が進み、不合理に態度をされることに繋がる可能性もあるので、どんどん情報発信していき、同時にファン化へ繋げられたらいいと思う。（男性，小学校就学後）
- 愛の手帳（またはミライロID）を活用した割引情報の共有（男性，小学校就学前）
- 療育や放課後デイに関しては市内で不足があるのであれば，周辺区市の情報もまとめて欲しい。支援やイベントの一覧にアクセスできるアプリ等があったら助かる。（女性，小学校就学前）
- 受給者証や愛の手帳で受けられるサービスの一覧が欲しい。発達への悩みに対しての攻略チャートのような支援や進路の全体がわかりやすい物が欲しい。（男性，小学校就学前）

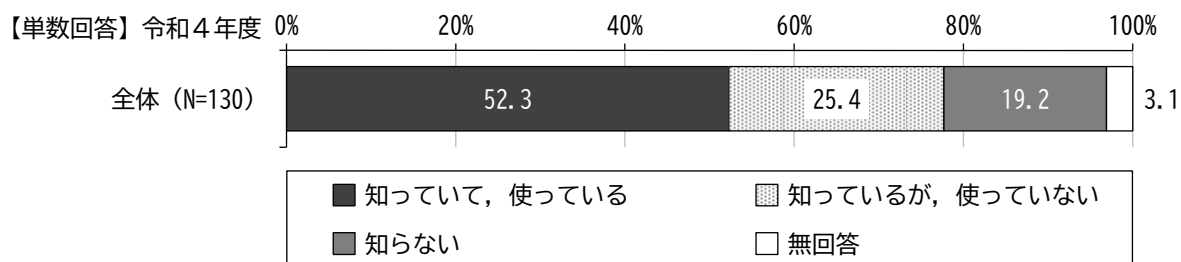
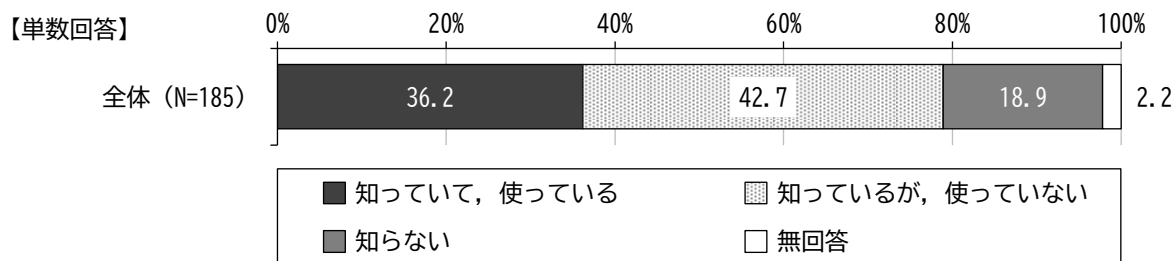
ウ その他

- 同じような悩みを持つ親同士のオンラインコミュニティサイトなどがあったら嬉しい。（男性，小学校就学後）

8 保護者の方に、調布市の障害者福祉施策についておたずねします

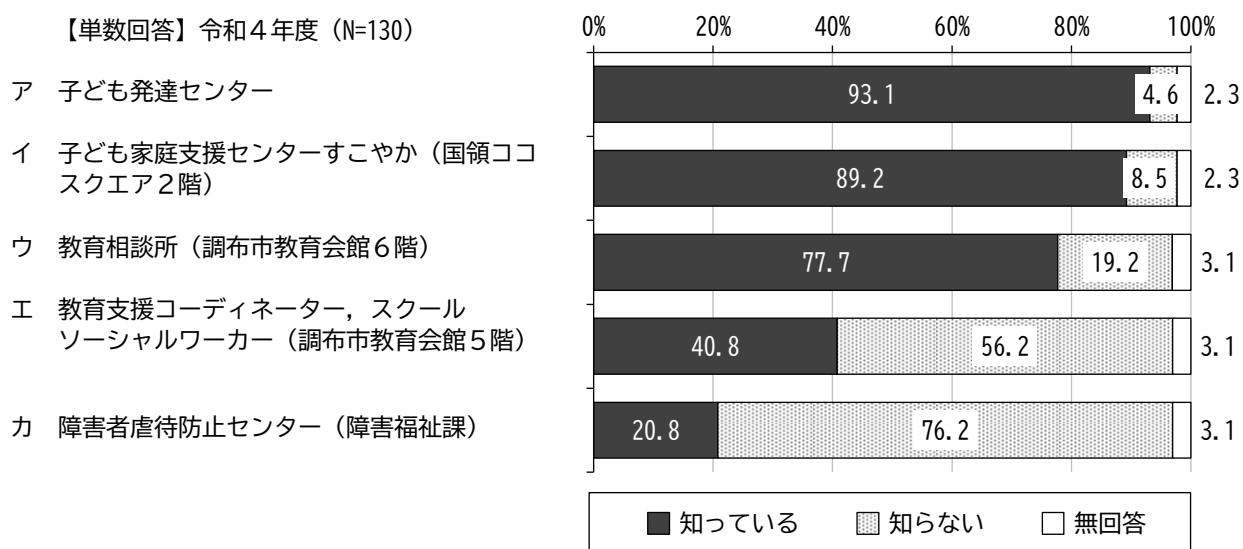
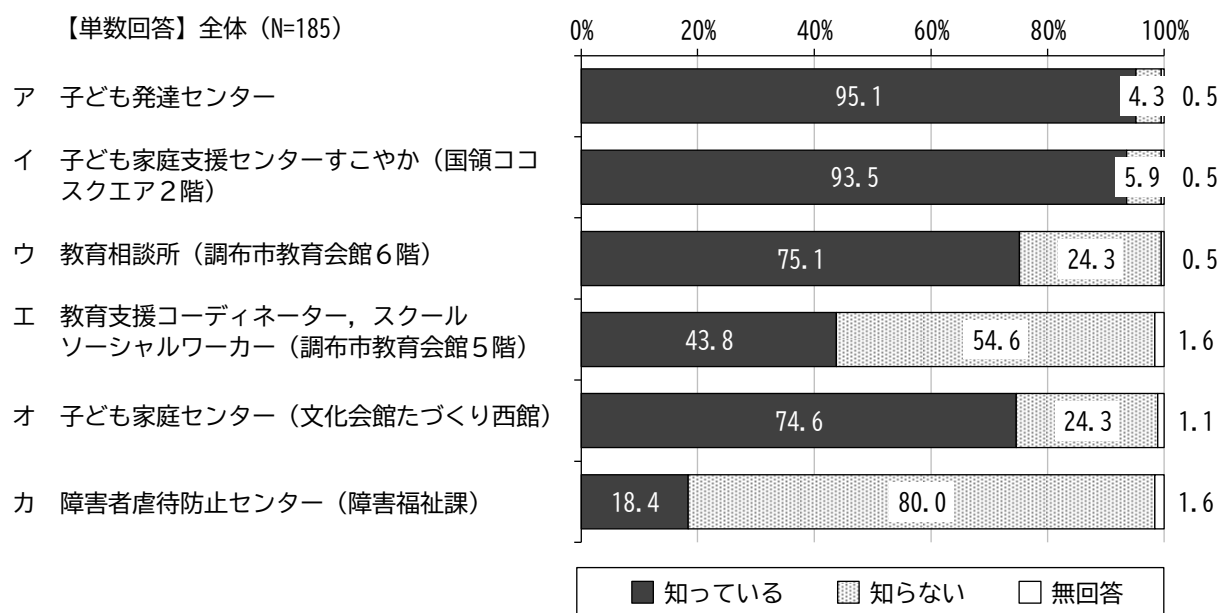
問 38 あなた（保護者）は、調布市が個別配布している「i（あい）-ファイル」をご存知ですか。（1つに○）

- i（あい）-ファイルについて、「知っていて、使っている」と「知っているが、使っていない」を合わせた『知っている』の割合は78.9%となっている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、「知っていて、使っている」の割合は16.1ポイント低く、「知っているが、使っていない」の割合は17.3ポイント高くなっている。



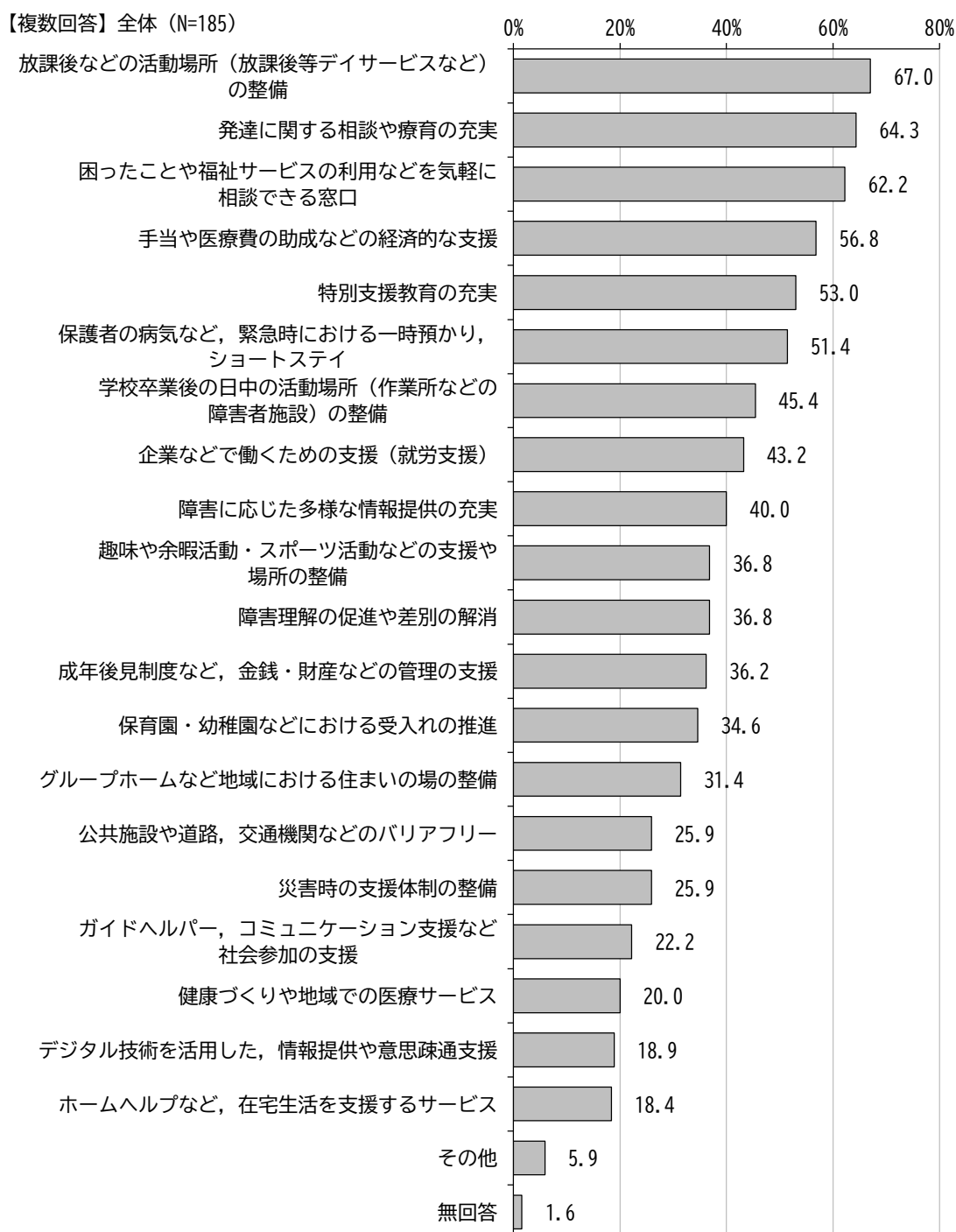
問 39 あなたは次の調布市の相談窓口や制度を知っていますか。(それぞれ1つに○)

- 市の相談窓口について、「知っている」の割合は、[ア 子ども発達センター (95.1%)] が最も多く、[イ 子ども家庭支援センターすこやか (国領ココスクエア2階) (93.5%)], [ウ 教育相談所 (調布市教育会館6階) (75.1%)] が続いている。
- 令和4年度の調査結果と比較すると、[ウ 教育相談所 (調布市教育会館6階)] で「知らない」の割合が5.1ポイント高くなっている。



問 40 調布市の障害児福祉施策（サービス）をより充実していくために、あなた（保護者）が特に重要と考える取組は何ですか。（いくつでも○）

- 市の障害児福祉施策（サービス）の充実のために重要な取組は、「放課後などの活動場所（放課後等デイサービスなど）の整備（67.0%）」が最も多く、「発達に関する相談や療育の充実（64.3%）」、「困ったことや福祉サービスの利用などを気軽に相談できる窓口（62.2%）」が続いている。



問 41 市民同士がお互いに支え合い、住み慣れたまちで誰もが安心して暮らすことのできるまちづくりを進めるためには、以下の①～③の取組が重要です。これらの取組について、ご意見、ご提案をお聞かせください。（自由記述）

- 市民同士がお互いに支え合い、住み慣れたまちで誰もが安心して暮らすまちづくりの取組についてのご意見、ご提案を自由記述形式でたずねたところ、105 件の回答があった。以下に項目別の意見数を掲載する。

項目	意見区分	意見数
①地域活動の活性化・市民同士の支え合いの仕組みづくり	ア 障害への理解 イ 交流 ウ 行政・その他	14
②相談・サービスの充実	ア 市のサービス イ 相談体制の充実 ウ サービス等の情報提供	42
③安全・安心の確保等	ア 交通安全 イ 防犯・防災の強化 ウ 暮らし	18
取組番号の選択なし		5
3つの取組以外で気になっていること	ア 教育・保育の充実 イ 障害者支援 ウ 共生社会の推進	26
合計		105

- 項目別に意見を抜粋して掲載する（原文通り）。 ※性別はお子さん

①地域活動の活性化・市民同士の支え合いの仕組みづくり

ア 障害への理解

- 親の会はとても重要な役割を果たしていると思います。PTAと親の会がもっと連携していけると良いと思います。（男性、小学校就学後）
- 様々な人が同じまちで一緒に暮らしていくためには、お互いを知ることが何よりも重要だと思う。そしてお互いを知るためには、多様な人々の接点が日常生活の中に当たり前にうまれるまちづくりという視点が欠かせないのでは、という思いも強い。人々の多く集まる場所に福祉サービスの拠点を構えることで、お互いを支え合い、誰にとっても安心・安全に暮らせるまちづくりを目指すという調布市の姿勢が体现されるのではないだろうか。支援を必要とする人々が暮らしやすいということは、誰にとっても暮らしやすい環境であるということを根底に置いたまちづくりを進めていただけるよう心から願っている。（女性、小学校就学後）

イ 交流

- せっかく調布ヶ丘に地域福祉センターがあるのに選挙の時と特定の集団のイベント（赤ちゃんと母のすこやかなイベント、ヨガ、シニアの集まり）でしか行くことが無

い。年1回のわくわく広場だけでなく、普段から「第3の居場所」的な使い方や、多世代交流，異文化交流，インクルーシブな居場所，誰でもカフェ，みたいな試みがあったら面白いと思うし，同じ地域住民同士が顔見知りになれる場所になると思います。（女性，小学校就学後）

- 市民同士の支え合いを否定するものではないが，当事者でないと理解できないことが多いため，まずは，直接的な支援の充実（療育先の拡充や，学童の障害児枠の増加）を希望する。子どもが生活していく場としては，長期的には，子どもが成長するにしたがって学校に適応し自分の居場所を見つけて周りに頼りながらもそれなりに快適に過ごせるよう，支援級や支援学校に閉じた枠組みだけでなく日常的な交流機会が必要だと感じる。行事のみの参加ではお客様扱いになってしまい特別扱いという概念がなくなる。（女性，小学校就学後）

ウ 行政・その他

- 調布市への年齢層の若い転入者が増えていき，市全体で自治会参加率や地域活動への参加率等が低下しているのではないかと危惧しています。これらの地域活動が，支え合いの土台になっていると思うので，継続的に自治会や地域活動の呼びかけを続けていたり，それぞれの活動，団体の課題を吸い上げて解決していく仕組みづくりを市役所の方々も巻き込みながらしていただければと思います。（男性，小学校就学後）

②相談・サービスの充実

ア 市のサービス

- グループホーム(知的など障害者向け)がとても少なく，子供の将来が心配。A型事務所(就労支援)が調布市内になく，入所したい要望は沢山あるのに困っている。B型事務所(就労支援)も少ない。希望の職に就けない。この3つの施設が増えるよう，何か対策をしてほしい。（男性，小学校就学後）
- 療育をもっと充実してほしい。3歳児検診で療育が必要となっても，なかなかすぐに開始できなかつたり，開始できても月1回など数が少なかった。療育はなるべく早く開始して定期的に行えると効果的だと思うので，そういった場所をもっと充実してほしいです。よろしくお願いします。（男性，小学校就学前）
- 言語聴覚士や作業療法士をもっと増やしてサービスの充実をお願いしたいです。調布市は他の市や区と比べると少ないそうです。発達障害児は多いと思うので，より多くの人が発達支援を受けられるように言語聴覚士や作業療法士，あと心理士も増やしてほしいです。（男性，小学校就学前）
- 親が働き続けるためには，少なくとも8～19時で預かってもらえる場が必要です。子供が大きくなればなるほどその場はなくなります。収入がなくては子供を育てられませんし，施設利用が高額だと家計を圧迫します。ひとり親の家庭などはなおさらです。親の就労支援のサービスを充実させてほしいです。（男性，小学校就学後）

イ 相談体制の充実

- 未就学児までは調布子供発達センターで色々な相談や療育を受けられる機会があるが，小学生になったらもうゼロになってしまう。通級教室など学校にはあるが療育専

門の先生ではないのでどうなのかなと思う。通級教室とことばの教室、両方通えない今のシステムにも疑問がある。発達特性がある子でことば発音についても不明瞭な子は多いと思うので片方しか通えないのは不便。知的能力に問題が無く、発達特性がある子(グレー)については特に公的支援もなく、見た目が普通なので困りごとも分かりにくく、理解されにくいのでやはり専門の先生を学校に配置してもらえたら嬉しいなと思います。(男性、小学校就学後)

- 子供発達センターを利用していますが就労している親にとっては平日の通所が厳しいです。最初の面談のみでなく、土日に対応していただけると助かります。グレーゾーンと呼ばれる子供も近年増加。働く親も増え続ける今、そのような取り組みをしていただければより充実した支援が受けられると感じます。(男性、小学校就学前)
- 相談や問い合わせ等をした際にはきちんとご対応していただける窓口等がありますが、個々に対しての提案(市報やチラシ、SNSで発信される福祉系のイベントや講義等ではなく)があっても良いかと思う。なかなか忙しい生活の中で、気付かない、知らないことも沢山あるかと思うので、市が1人1人の障害児に対応するのは困難かとは思いますが、それに近い取り組みをして頂けると助かることもあるかと思います。(男性、小学校就学後)

ウ サービス等の情報提供

- 発達障害グレーの子がいますが、最初の子で放課後デイサービス等の施設もよくわからず、途方に暮れました。また、発達センターを利用するにもかなりの待ち時間を要しました。市役所の方でも情報(民間療育や発達専門病院等も)あったら教えて欲しかったです。(女性、小学校就学後)

③安全・安心の確保等

ア 交通安全

- 歩行者道路の狭い所が多々ある。自転車用の道路も整備してほしい。車道を走っていると車との距離が近いので怖い。息子には言葉がまだ通じないので車道側に身を乗り出したり、手を出したりするので毎回ヒヤヒヤしています。(男性、小学校就学前)
- 通学路など、普段子供達がよく利用する箇所において、安全対策を徹底してほしいと思います。道路にはみ出してきている木々などは、所有者に対して積極的に行政から働きかけを行って欲しいです。(男性、小学校就学後)

イ 防犯・防災の強化

- 障害によっては自宅から失踪・行方不明になる方もいます。我が家も2回程自宅から出ていってしまい、とても慌てました。交番で聞き取りをしていただいている間にどんどん遠くに行ってしまうのではと不安でした。ヘルプマークを手に入れた時点で予め市内の交番や駅に(希望する場合は)情報提供しておいて、いざという時に間髪入れず搜索してもらえると安心です(一度でも行方不明になるとそのような情報共有は市内の警察間であるのでしょうか?知らないので書きました)。避難所において、障害のある方が居づらいという報道をよく見ます。障害のある方、配慮の必要な方のブース(というかフロアや部屋)を予め区分しておくと思えば安心して居続けられると思

ます。お互いさま、と思えるもの同士なら厳しい状況でも気配りできると思うからです。周りに「申し訳ない」と思うことがとても負担なので。(男性、小学校就学後)

- 昨今、支援者による虐待や性的虐待のニュースが目立ち親としても簡単に預け先を決めることができません。人手不足は、どの業界でも共通問題ではありますが、教師のように過去の犯罪履歴等を確認いただける機能があると有り難いです。(女性、小学校就学後)
- 災害時に薬を含む医療の受け方がどうなるのか調べてもわからない。子供の粉薬など、普段から近くの薬局では手に入らないものもあり、不安に思っている。(男性、小学校就学前)

ウ 暮らし

- 重度知的障害者に対応できる入所施設やグループホーム、そして行動援護サービスが不足していると感じています。グループホームの数は増加傾向にあると認識していますが、重度知的障害者(特に強度行動障害を伴う方)を受け入れられる施設は依然として少なく、利用が困難です。実際に、私の息子は重度知的障害ですが、過去に小規模ショートステイの利用さえ断られた経験があり、グループホームが増えても「行き先がない」という切実な問題に直面しています。また、行動援護の提供事業者や対応できる人材も不足しており、必要な支援を受けられていません。【要望事項】
1. 重度知的障害者を安全かつ安心に受け入れられる施設(入所施設、グループホーム、短期入所施設を含む)の整備拡充をお願いします。「住み慣れた地域での生活」を実現するため、居住地域内でサービスを利用できるよう、地域偏りのない施設整備を推進していただきたいです。
2. 行動援護サービスの提供体制の強化。(男性、小学校就学後)

3つの取組以外で気になっていること

ア 教育・保育の充実

- 保育関連になりますが障害児も含め健常児も受け入れしてもらえる年末(年始)の保育を再開してもらいたいです(保育園)。近隣の市では受け入れがありますが、調布市ではここ数年とりやめているので周りからも不便という声をよく聞きます。(男性、小学校就学前)
- 調布市の小学校に子どもを通わせているが、インクルーシブ教育が遅れていると感じる。通常級と支援級には隔たりがある。隣の川崎市では、インクルーシブ教育が進んでいると聞く。通常級支援級と隔たりがなく、当該児童は特性に合わせて授業を行き来しており、それが子ども達にとって通常であり、当たり前のように捉えているとのこと。このように子どもの時から、色んな人がいるということを当たり前と感じることで、差別や偏見をなくすることができるのではないかと思います。調布市もインクルーシブ教育が進んで欲しいと思う。(女性、小学校就学後)
- 調布市の小学校の支援級はなぜ知的級しかないのでしょうか。発達障害があると通常級では生活が難しい児童もたくさんいます。情緒級の設置をお願いします。(女性、小学校就学前)

イ 障害者支援

- 発達について受診できる病院が少ない。他の市に行くしかないのが現状です。(男性, 小学校就学後)
- 就労後の生活です。現在両親ともフルタイム勤務ですが(公務員の為時差利用)作業所就労となると時間が短く, それ以外の時間は家庭にいるため, フルタイムは諦めなければならないかと残念な気持ちです(専門職でもある為…)。ヘルパーさんも慢性的に不足しているとのことで, 夕方の時間の過ごし方が課題です。(男性, 小学校就学後)
- A型B型の拡張や補助金, 障害者年金などの保障を充実させて経済的安定できるようになればと思います。(男性, 小学校就学後)

ウ 共生社会の推進

- このようなアンケートの実施に感謝します。ありがとうございます。年々インクルーシブ, 多様化が世の中の的に進み, 素晴らしいと思いますが, まず障害児の子育て中の親世代は, 毎日を生きるのに精一杯です。私は特別支援学校, 放課後デイ, ショートステイと多くの福祉サービスを利用できており, 恵まれている方ですが, 人手不足や新規の受付取りやめ中とか, 利用できない方も多く, 私もこれらのサービスがなくなると, 途端に全ての負担が自分に来ることが不安です。まずは福祉サービスに就いてくださる人材確保, 雇用促進, 給料アップ, そして誰でもできることではないので, 研修や育成など, このあたりもお願い致します。(男性, 小学校就学後)